

「品川区立小学校の通学区域のブロック化」 調査研究報告書

2000年5月30日

品川区立小学校「通学区域のブロック化」に関する調査研究プロジェクト

発行・編集：専修大学嶺井正也研究室

目次

| | |
|---------------------------------|-----|
| はじめに | 1 |
| 活動記録 | 2 |
| 一．結論 | 3 |
| 二．調査について | |
| 1. アンケート | |
| (1) 概要 | 9 |
| (2) 集計結果 | |
| (単純集計・自由記述・クロス集計) | 13 |
| (3) 考察 数値分析 | 29 |
| 記述分析 | 35 |
| 2. ヒアリング | |
| (1) 概要 | 38 |
| (2) 要旨と考察 | |
| 1) 品川・生活者ネットワーク | 39 |
| 2) IWC / IAC国際市民の会 | 41 |
| 3) 部落解放同盟東京都連合会品川支部 | 41 |
| 4) 日野市生活者ネットワーク | 42 |
| 5) 島根県教育委員会・出雲市教育委員会 | 43 |
| 三．補論 | |
| (1) 学校選択制 その政策的比較 | 45 |
| (2) 学校選択論への視点 | 47 |
| (3) 人権の視点からみる通学区域のブロック化 | 51 |
| (4) 翻訳：『選択対象としての学校』（OECD、1994年） | 53 |
| (5) 中央教育審議会 1998/99 答申 | 55 |
| 四、参考資料 | |
| (1) 品川区のブロック選択制に関する行政関連文書 | 57 |
| (2) 品川区の教職員組合関連 | 88 |
| (3) その他の自治体の選択制関連文書 | |
| 1、東京都中野区立学校適正規模適正配置審議会 | 94 |
| 2、東京都目黒区教育委員会審議会報告書概要 | 97 |
| 3、東京都日野市学校規模適正適正配置検討委員会 | 103 |
| 4、島根県出雲市立学校区検討委員会 | 105 |
| 5、三重県紀宝町教育委員会関連 | 110 |
| 6、臨時教育審議会「教育改革に関する第3次答申」 | 111 |

はじめに

本報告書は、1999年度に東京都品川区が打ち出した「小学校通学区域のブロック化」に関して専修大学嶺井研究室が行った調査研究の報告書である。

1ブロック10校ほど小学校の中から、子どもの就学先を保護者が自由に選択できるようにしたこの品川区の試みは、制度として従来の「通学区域の弾力化」の枠を大きく越えるものであっただけに、マスコミ、学会、教育関係者、保護者などの大きな関心を集めたことは周知の通りであろう。

私たちは品川区における「通学区域のブロック化」という試み導入の手続きを検討したばかりでなく、「特色ある学校づくり」を掲げて学校改革を進めようとしている近年の教育政策・行政の動向を踏まえて、この「特色ある学校づくり」の手段・方法として導入されたというこの試みの目的整合性をも検討した。その過程で、この試みの背景や他の自治体でのいくつかの試みについても分析を行った。さらには、この問題と深く関わるいわゆる「学校選択制」をめぐる論議も国内外にわたって検討した。

私たちは本報告書をまとめるに際して、こうした「通学区域の弾力化」、「通学区域のブロック化」、「学校選択制」などの動きは、教育政策・行政側の意思ばかりでなく、公立学校、そこに働く教職員に対する保護者や地域の人々からの批判、注文、激励などの意識が反映されている一面を強く感ぜざるをえなかった。公立学校はこうしたことを真摯にうけとめ、学校改革に取り組む必要があることを、私たちは一方で痛感した。

1999年10月から2000年5月にかけて、資料収集、ヒアリング、保護者アンケート、文献研究などを行い、ようやく報告書にまとめることができた。この報告書が日本の教育改革を真剣に考えている関係者の利用に供してもらえれば幸いである。

最後にこの調査研究に御協力いただいた方々にお礼を申し上げたい。特に品川区立の幼稚園、保育所へのアンケートが教育委員会の方針によりまったく受け付けてもらえなかった状況において、私立幼稚園、保育所に多大にご協力していただいたことに感謝してここに記しておきたい。

また、突然で、なおかつ各研究機関からのアンケート攻勢に合わせながらも私たちの保護者意向調査に協力していただいた保護者の方々にもあつく御礼申し上げたい。

2000年5月30日

専修大学嶺井正也研究室スタッフ一同

活動記録

本研究プロジェクトの会合の記録

| | |
|--------|------------------|
| 第1回会合 | 1999年10月16日 |
| 第2回会合 | 10月29日 |
| 第3回会合 | 11月13日 |
| 第4回会合 | 11月27日 |
| 第5回会合 | 12月7日(含む、ヒアリング) |
| 第6回会合 | 12月11日 |
| 第7回会合 | 12月14日 |
| 第8回会合 | 12月24日 |
| 第9回会合 | 2000年1月7日 |
| 第10回会合 | 1月15日 |
| 第11回会合 | 2月16日 |
| 第12回会合 | 2月19日 |
| 第13回会合 | 2月29日 |
| 第14回会合 | 3月11日(ヒアリング) |
| 第15回会合 | 3月16日(ヒアリング) |
| 第16回会合 | 4月4～5日(島根県出雲市調査) |
| 第17回会合 | 4月7日(ヒアリング) |
| 第18回会合 | 4月15日 |
| 第19回会合 | 4月24日 |
| 第20回会合 | 4月28日(ヒアリング) |
| 第21回会合 | 5月2日 |
| 第22回会合 | 5月21日 |
| 報告書発表 | 5月30日 |

プロジェクト構成員

研究代表者 嶺井正也(専修大学)

研究分担者 大森直樹(東京学芸大学)

田口康明(聖徳大学短期大学部)

御園生純(東京工科専門学校)*五十音順

一、 結論

1、 目的との整合性なき「通学区域のブロック化」

今回、東京都品川区で実施された「小学校通学区域のブロック化」の試みは、導入の手続き、目的との整合性などの面で問題が多かったということを先ず指摘しておきたい。

第一に手続きの問題で、「学校選択制」の導入を政治課題とした品川区長の進め方に問題があったように思われる。

他の区においては、学校統廃合など区民の大きな関心に関わる行政課題については、審議会を設けて区民の意見を幅広く聞くという当たり前の手続きが曲がりなりにもとられる場合が多いが（日野市、目黒区、中野区など）、品川区においては教育委員にすら突然しめられるというやり方で導入されたのである（参考資料・52～59P参照）。これは導入を政治課題とした品川区長の姿勢を教育長が受け止めて、かなり強引に動いたということであろう。品川区で行ったヒアリングや保護者アンケートでもこの点への不満がみられたことがこれを裏付けしている。その例を一つだけ引用しておきたい。「あまりにも制度として突然すぎる。選べと言われても、一体どんな学校なのかわかりづらい」（「その他」自由記述回答より：回答者番号128）。

第二の問題は、今回の「通学区域のブロック化」はその目的とされた「特色ある学校づくり」（品川区教委が示した教育改革のための「プラン21」参照）との間にほとんど整合性がみられなかった点にある。

まず、選択基準になるべき学校の「特色づくり」に無理があったということである。

品川区教委が「プラン21」で例示した「4つの特色」は各学校で自主的に創りあげたものではなかったし、しかも教委が提示したものであった。つまり、それは「上」から示された「類型」ではあっても、各学校ごとに創りあげた「独自性」ではなかった。もしも各学校ごとにつくりあげるものであれば、特色はそれこそ「十人十色」ならぬ、「十校十色」でなければならないはずである。

また、教育長は「『学校選択』といっても、選択自体が目的ではない。選択できる幅を広げることで、保護者や地域の意見を採り入れて、学校の個性や特色を作り出していく好機になると思う。〈中略〉理想を言えば、各学校がこうした特色を出した後に、選んでもらう方法もある」（資料集13P：朝日新聞1999年11月1日朝刊）として、今後に期待をかけてはいるが、果たしてそうなるであろうか。というのも、保護者や地域と一体となって特色ある学校づくりにとりくむための条件整備があまりなされていないからである。

しかも、弾力化されかなり各学校での自主的な教育課程編成ができるようになったとはいえ、依然として「学習指導要領」によるしびりが残っている以上、「特色ある学校づくり」には限界があるともいえるのではないか。

こうした手続きや条件整備の面だけでなく、「特色ある学校づくり」に困難をもたらすもっと大きな問題がある。私たちが行った保護者アンケートでも数多く指摘されていたことであるが、校長を含む教職員の定期的な人事異動があるかぎり、継続性のある「特色ある学校づくり」は無理ではないか、ということである。「特色ある学校づくり」はなんといっても、教職員がその中核を担っているからで

ある。人事異動の問題は品川区教委だけの問題ではなく、東京都教委の問題になる以上、この面でも「特色ある学校づくり」を人事の面ですすめていくことは困難が予想される。

次に、私たちが行った保護者アンケート結果では「学校選択」の基準は、品川区教委が示した「プラン21」で示された「学校の特色」とは別のものが多かったということである（詳細は後述）。しかも、品川区教委が行った中学校選択に関する保護者アンケートを見ても、保護者の選択基準で一番多かったのが、「速報」の数値ではあるが、「いじめや荒れの状況」14.11%であり、ついで「生徒が落ち着いている」11.53%、「学校の近さや通学のしやすさ」11.31%と続いている（参考資料 81～84P参照）つまり、区教委の目的とした「特色ある学校づくり」に沿った学校選択は行われていないということである。

なお、驚いたことに、区教委が行ったアンケートにおいて、「特色ある学校づくり」に関わるような選択基準がそもそも項目として設定されていなかったのである。一体、これは何が原因なのであろうか。導入があまりにも拙速で行われたのが原因なのか、そもそも初めに「学校選択制の導入ありき」という教委側の姿勢に由来するものなのか。いずれにしても、区教委自体が「特色ある学校づくり」と「学校選択制」との結びつきを十分考えてはいなかったことの証明ではなからうか。

2. 保護者の学校選択動向

1) 今回の場合

「通学区域のブロック化」の試みで、保護者は実際どのような選択を行ったのであろうか。

まず、昨年11月30日までに、ブロック内で指定校を変更し、他の学校を選択した保護者は、入学予定者（国立や私立への進学予定者や引越し予定などを省いた当時の予定者）1979名中の12.6%にあたる225名であった。1999年度まで指定校への就学通知がなされた後、1月末をめどに行われていた「指定校変更手続き」者数よりは若干増えたことになる（1999年度で172名で就学者の約9.6%）。

しかし、昨年11月30日以降の増加を含めて最終的なブロック内選択者数231名と、従来方式による翌1月末までの「指定校変更等」の人数96名を加えると、実際に品川区において指定校以外の小学校に行くことになった人数は最終的には327名で、就学者数全体1785名の約18.3%にあたる（参考資料71P）。したがって、昨年11月段階の12.6%からは大幅増になり、昨年度の指定校外通学者9.6%に比べると倍増したことになる。

当初、品川区教委では最終的には1999年度並に落ち着くとの判断を示していたのであるが（別冊資料集59P：主任発言）、理由を問わない11月末段階の指定校変更と理由を付した翌1月末までの指定校変更・区域外就学の合計人数が就学者の約2割に近くなった。これが判明した2000年5月の時点でも、またもや「予想の範囲内」とする区教委関係者の認識と発言（別冊資料集40P）は私たちに理解できないところである。

それはともかくとして、昨年11月30日までに就学する学校を登録した、その結果（参考資料・69P参照）を見てみると、いくつかの特徴が見られた。流入が一番多かったのは、品川区で最多の子どもが通う、1875（明治8）年開学の大井第一小学校（大井・八潮ブロック）であり、その人数は一学級の人数を上回る48人にもなった。これを加えた入学予定者が107名（その時点）であるから、約5

割弱が校区外からの通学者となる。私立中学受験をする子どもが多いと言われている学校であるし、学校の施設・設備面でも充実していると言われている（逆に、同小へ転出が多かった近隣の小学校では、トイレが男女別にきちんと分けられていないなど条件面での不利益があったところもある）。同校はこれまでも指定校変更による他の学区からの入学希望者も多く、1999年度も入学者数89名中20名であった。

逆に、その影響でこの「大井・八潮ブロック」では大井第一小学校近隣の学校で、立会小を除けばすべて流出者が多くなっている。反面、鮫兵、山中、伊藤の各小学校の場合、流入者は0ないし1名である。原小学校は、通学路に線路がある関係で流入してきた7名に対して、23名が流出している。

またこのブロックでは、ニュータウンの八潮地区で特徴のある動きが見られた。隣同士の八潮北小学校から八潮小学校へと約半数が流出している。「学級崩壊」的な現象がみられるとの風評や、小規模校化への懸念などが基準となったと考えられる。

もっとも範囲が広く、しかも東西に長い「品川・大崎ブロック」で特徴ある動きがみられた。商業地区に立地し、品川区でもっとも小規模の第二日野小では流入1名に対して流出が9名となり、反面、住宅地域にある第三日野小では流出はなく流入が6名となった。第三日野小は品川区では大井第一小学校と並んで、私立中学進学者が多い小学校と言われている。

「荏原東ブロック」と「荏原西ブロック」では、大間窪小学校で9名増となった以外はそれほど特徴的な動きはなかったといえよう。

残念ながらこの段階で保護者がどんな理由で実際に指定校変更を行ったのかを明確にはできてなかった。この4月に小学1年生となった子どもの保護者を対象とした品川区教委と品川区立小学校PTA連合会による「『通学区域の弾力化』に関するアンケート調査」の結果が未発表のためである。しかし、少なくとも、区教委が目的とした「特色ある学校づくり」との関係はほとんど見られなかったものと断定できる。むしろ、通学の問題や友人関係という問題を別にすると、「荒れているのではないか」「学級崩壊がありそうだ」といった風評や小規模校化への懸念で指定校を避けるという面と、「私立中学校への進学」や「施設・設備面での充実」など積極的に特定の学校を選んでいく面が見られたものと私たちは判断している。これは品川区の関係者へのヒアリングと私たちがおこなった保護者アンケートからの判断である。ちなみにこのアンケートでは、学校選択の基準に関して、通学距離、友だち関係、通学路の安全性、「荒れの有無」などが上位になっているからである（13P参照）。

この判断を裏付けるもう一つの方法は、品川区教委自身が行った保護者と子ども対象のアンケートである。小学5年生の保護者の場合、前述した小学6年生の保護者とほぼ同じ傾向であり、選択基準は「いじめや荒れの状況」、「生徒が落ち着いている」、「学校の近さや通学のしやすさ」が上位にきているからである。また、小学5年生の子どもの場合、「いじめがない」15.26%、「友だちがたくさんいる」13.05%、「勉強をしっかりと教えてくれる」11.48%であった。いずれも「特色ある学校づくり」とは直接には結びつかないものである（参考資料83P）。

2) 今後の動向

かつて大幅な通学区域の弾力化を行った足立区は、特定の小、中学校への集中化が起こる一方、通

学者が大幅に減少する学校が続出するなど学校間格差が極大化するという現象がみられ、通学区域の弾力化施策の見直しを迫られた。

来年度に向けて、品川区では中学校への導入が予定されているが、先の品川区教委自身による保護者アンケート結果で「いじめや荒れ」、「生徒が落ち着いている」などの選択基準に多くの回答が寄せられているのを見ると、今後、足立区ほどにはならないにしても品川区でも、特に中学校の場合には通学者が集中する学校と集まらない学校とが明確になっていくことが懸念される。従来型の指定校変更について今年度を見ると、216名が動いており、これは4月7日時点での見込み者数に対して12.5%となっている（参考資料72P）。「通学区域のブロック化」が導入された小学校の場合、前述したように昨年度の倍増になったことを考え合わせると、こうした懸念が生まれることは当然であろう。

さらに、在校生に関しても翌年度以降に就学校の変更が可能になるとすると、小学校でも大きな流動化がすすむ恐れがないわけではない。

3. これからの課題

1) さらなる背景分析を

以上、品川区教委の考え方に即して、幾分、批判的な分析を試みてきた。しかしながら、品川区民の間には、少なくとも反対運動を起こすまでの強く、圧倒的な反対が見られないことは確かである。だからこそ、曲がりなりにもこの品川区において、問題が多いと思われる「通学区域のブロック化」の試みが実施に移され、さらに来年度からは中学校へと拡大されようとしているのである。これは現実として受け止めるべきである。

この背景としては以下のことが考えられる。

東京都の区部に共通して見られるような、指定校変更等による「越境入学」と、私立学校への入学者が全国に比してかなり多いという事情である。

東京都教委の調査によると、1998年度の指定校変更は、小学1年生の場合、区部7.5%、市部1.6%、町村部2.8%で東京都合計では5.3%であり、中学1年生の場合区部8.1%、市部1.0%、町村部0.8%で東京都合計では5.3%となっている。区部での指定校変更は1996年度6.2%、1997年度6.9%に対し、1998年度が7.5%で確実に増加していることが分かる（参考資料76P参照）。文部省調べの全国平均が1998年度で3.09%であるから、東京の区部の指定校変更がいかに多いかが理解できよう（参考資料75P参照）。いわゆる「越境入学者」がいなければ、廃校になってしまうような状況にある昼間の人口数の少ない千代田区、中央区のいくつかの学校では、半数以上がそういう子どもたちで占められているのが実状である。

また、私立学校への通学者も東京都の場合は多い。世田谷区の教職員からの情報では、私立小学校は約1割、私立中学校へは約3割とのこと。品川でもほぼ同じような割合であり、2000年度のデータでは、私立中学への進学者は昨年10月1日時点での見込み者数2316名に対し、544名で約23.5%であり、小学校では1979名の見込み者に対し124名、約6.3%になっている（参考資料71P）。これは全国的に比べてかなりの高率でになっていると思われる。

品川区固有の状況として比較的狭い地域に、設置年代の古い多くの小学校、それも生徒数がかなり

減少している小規模校が存在しているという事情である。特に「荏原東ブロック」や「荏原西ブロック」では、これが顕著である。小学生の足で、短時間に通学できる距離内にいくつもの小学校が存在している。しかも、保護者はもちろん子どもたちの行動範囲、生活圏の範囲内に存在しているので、極端に言えば、どの学校も「地域の小学校」だとの意識をもつことが可能なのである。

こうした東京都や品川区に固有の背景以外にも、今回の「通学区域のブロック化」導入が保護者の間に強固な反対もなく実施に移された背景、事情を考える必要がある。

品川区教委の行ったアンケートでも、小学5年生の保護者の場合「中学校選択制」について賛成を表明している保護者は3分の2に上っている。私たちの行ったアンケートでも賛成と反対が半分をめぐって拮抗してはいるのである。これは品川区の教職員の意識調査において、圧倒的に反対の意見が体勢を占めていることとは対照的である（参考資料 85～90 P 参照）。

この違いをどう受け止めるべきであろうか。私たちの調査でも、保護者の半数が「通学区域のブロック化」を支持したのは何故であろうか。

やはり、保護者、市民の間に公立小、中学校に対する根強い不満や批判が渦巻いていることの現れと見ていいのではないだろうか。「その他」の自由記述回答に見られるように、公立学校は活性化していない、閉鎖的である、管理教育から学び合う学校教育に変化して欲しい、との意見があった。一方、区教委によるアンケートでの中学校の選択基準でも、これまでの何回となく触れたが、基準は「いじめや荒れがない」がトップ、続いて「生徒が落ち着いている」という項目であった。

こうしたことを総合的にみても、保護者は、通学が安全で、落ち着いた環境の中で、いじめに合うことなく、友だちと楽しくのびのび過ごせる、地域に開かれた学校を望んでいるのではないか。

しかし、これは考えてみれば公立学校本来の姿である。保護者たちは当たり前の学校であることを期待しているのである。今はやりの言葉でいえば「学校の基礎・基本」がしっかりしていることを何よりも望んでいるといって良い。「特色ある学校づくり」はその上にたってこそ成り立つものであるかもしれない。

品川区の「通学区域のブロック化」については、目的との整合性という観点から分析してみたが、公立学校をめぐる保護者や地域、そして子どもたちの声を踏まえたより綿密な分析が今後は必要であろう。そして、今回はなしえなかった教職員の意識との落差の背景や理由も検討しなければならない。

2) 「通学区域のブロック化」の捉え方について

さて、この品川区の「通学区域のブロック化」について、「教育の商品化」、「教育の市場化」をすすめ、公教育を破壊するものであると批判や反対が見受けられるが、私たちはこの批判はあまり妥当しないといわざるをえない。

確かに、これが導入された今年度は、昨年度に対して、指定校区以外の就学者が2倍になり流動化、つまりは保護者の選択行動が大きくなった。さらに、特定の小学校への転入が多くなるという状況も見られた。

しかしながら、転入者が多かった大井第一小学校や日野第三小学校の場合、昨年度までも転入者が多かったし、また私立中学進学に有利であるとの判断に保護者が立って選択したとしても、当の小学

校自身が「私立中学受験」を売り物（商品）、別言すれば「学校の特徴」にしているわけではない。こうした観点から、商品の特徴による売買行動がおこなわれ、それが消費者の家計状況により商品購入に際して格差が生じるといった市場経済的な動きまでにはいたっていない、と判断したのである。

今回の選択行動の拡大に関していえば、大井第一小学校（この場合でも、恵まれた施設・設備があるとの観点で選択した保護者もいると思われる）を除くと、指定校変更の理由は、保育所・幼稚園からの友だち関係、通学の安全性といった理由のほかに、保護者が「マイナス」と受け止める状況を避けるという消極的選択が多かったのではないかと類推できる。

その意味では、この受験競争教育の時代ではあっても、小学校就学の段階では保護者は競争に有利な面だけで選択したわけではなく、子どもの生活と学習を大事にした選択をしたもの面もあるのである。逆に言えば、通学区域の指定の仕方も含め、公立学校教育の在り方が問われているともいえる。まさに前述したように、公立学校の「基礎・基本」が問われているのである。昨年度に比して、約2倍もの指定校区外通学者が増えたことは、区教委のように「予想の範囲内」と開き直るのではなく、公立学校教育全体への不満や異議が顕在化したと受け止めるべきものであろう。

もちろん、この点については、将来の学区制全面撤廃をめざして昨年度から大幅な弾力化に踏み切った千葉県市川市の事例（市川市の小学校に勤務する教員の話では、比較的近い地域に複数の小学校があるということ、やはり私立中学受験に有利、つまり、私立中学を受験希望する子どもが多いとそれだけ刺激が多くなるとの保護者の判断が働いて特定の学校に集まる傾向がみられるという）など、全国の動向をも踏まえてより深い分析が必要となろう。

私たちも、公立学校に「特色」が必要ないとは思わない。学校の自主性が確立し、地域と共に生きる学校になれば、当然、そこには「特色」がうまれるであろう。問題は、その特色を選ぶのではなく、子ども、教職員、保護者そして地域市民が一体となって創りあげることであり、そのために人事異動、教育課程行政、学校運営などを改革していくことが重要となるのである。

二、調査について

1、アンケート

(1) 概要

実施時期：2000年2月25日～3月25日

実施方法：品川区在住の就学前児童家庭への無作為郵送配布

総配布数：2063

回答総数：402

宛先不明による未着数：151

有効回答率：21.0%

品川区公立小学校の「通学区域のブロック化」に関する保護者の意向調査

専修大学経営学部 嶺井正也研究室

次の質問にお答えください。答えは同封のはがきに番号を記入後、投函してください

質問1.あなたのお子さんの年齢を教えてください

1 = 2000年4月に小学校に入学予定 2 = 2001年4月以降に小学校に入学予定 3 = 2002年以降に入学

質問2.あなたのお住まいのブロックはどちらですか？

1 = 品川・大崎ブロック 2 = 大井・八潮ブロック 3 = 荏原西ブロック 4 = 荏原東ブロック
5 = 知らない 6 = 品川区以外

質問3.あなたはこのたびの「通学区域のブロック化」(学校選択制)に関心がありますか？

1 = はい 2 = いいえ

質問4.あなたはこの制度が必要だと思えますか？

1 = はい 2 = いいえ

質問5.あなたは、どの小学校を選びましたか(選びますか)？

1 = 区立指定校 2 = 区立指定校以外 3 = 私立小学校

質問6.あなたは、どのような基準で学校を選択しましたか？(5つ以内)

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1. 地元の学校 | 12. 学校図書館司書の有無 |
| 2. 通学距離 | 13. 教材の整備状況 |
| 3. 通学路の安全性 | 14. 子どもが喜ぶような給食 |
| 4. 子どもの友達関係 | 15. 校長の指導力 |
| 5. 私立中学への進学者数 | 16. 教員の指導力 |
| 6. 学校の伝統 | 17. 子どもにとって楽しい授業 |
| 7. 学校規模(クラス数) | 18. ユニークな学校行事の有無 |
| 8. 1学級あたりの児童数 | 19. いじめの件数 |
| 9. 児童一人あたりの教員数 | 20. 「荒れ」の有無 |
| 10. 児童一人あたりのパソコンの台数 | 21. 不登校の児童数 |
| 11. スクールカウンセラーの有無 | 22. その他 |

質問7.あなたが選んだ小学校について、上記質問6で選択した項目の現状をどの程度知っていますか？

1 = 知っている 2 = やや知っている 3 = ほとんど知らない 4 = 全く知らない

質問8. 上記質問6で選択した基準について、詳しい情報を知りたいですか？

1 = はい 2 = いいえ

質問9.どのような小学校が子どもたちの教育にとって望ましいと思えますか？(5つ以内)

- | | |
|--------------------------|-------------------------------|
| 1. 教科ごとに先生が違う学校 | 15. 学校運営に保護者の意見が反映される学校 |
| 2. 学校行事の盛んな学校 | 16. 中学生との交流が盛んな学校 |
| 3. 個別学習を徹底した学校 | 17. 子どもの良さを引き出してくれる学校 |
| 4. ボランティアに熱心な学校 | 18. 規則にしばられない学校 |
| 5. 習熟度別の学習指導のある学校 | 19. しつけ・生活指導に力を入れている学校 |
| 6. 担任を選択できる学校 | 20. 学校図書館が充実した学校 |
| 7. 情報教育が充実している学校 | 21. おいしい給食がでる学校 |
| 8. 英語教育が充実した学校 | 22. きれいなトイレやエアコンの設置などが進んでいる学校 |
| 9. いろいろな外国語に接することのできる学校 | 23. 校庭が広い学校 |
| 10. 人権教育に熱心な学校 | 24. 緑がいっぱいある学校 |
| 11. 障害のある子どもと共に学べる学校 | 25. その他 |
| 12. 平和教育に熱心な学校 | |
| 13. 男女平等教育に熱心な学校 | |
| 14. 保護者や地域の住民が授業に参加できる学校 | |

ご協力ありがとうございました

品川区の公立小学校のブロック化に関する調査解答用紙

質問 1の回答

質問 2の回答

質問 3の回答

質問 4の回答

質問 5の回答

質問 6の回答

その他

質問 7の回答

質問 8の回答

質問 9の回答

その他

その他、品川の「学校選択制」についてご意見のある方はお聞かせください。

料金受取人払



差出有効期限
2000年3月29日
まで(切手不要)

2 1 4 0 0 3 3

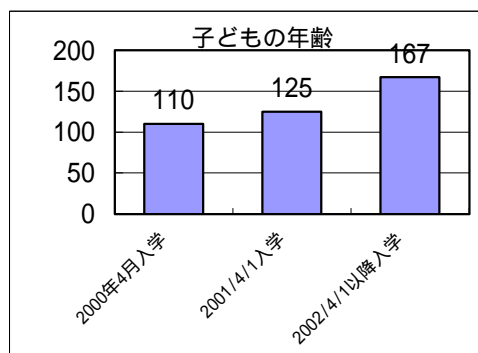
嶺井正也 研究室宛宛

神奈川県川崎市多摩区東三田二丁目一
専修大学九号館

(2) 集計結果

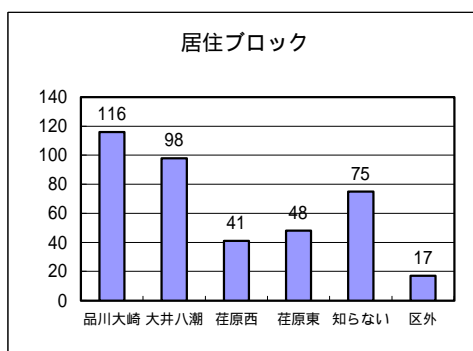
質問1 年齢

| | 数 | 率 |
|----------------|-----|--------|
| 1 2000年4月入学 | 110 | 0.3 |
| 2 2001/4/1入学 | 125 | 0.3 |
| 3 2002/4/1以降入学 | 167 | 0.4 |
| 無回答 | 0 | 0 |
| 計 | 402 | 100.0% |



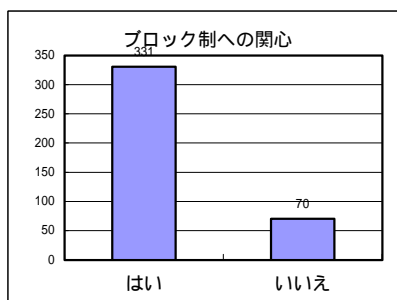
質問2 居住ブロック

| | | |
|--------|-----|--------|
| 1 品川大崎 | 116 | 28.9% |
| 2 大井八潮 | 98 | 24.4% |
| 3 荏原西 | 41 | 10.2% |
| 4 荏原東 | 48 | 11.9% |
| 5 知らない | 75 | 18.7% |
| 6 区外 | 17 | 4.2% |
| 無回答 | 7 | 1.7% |
| 計 | 402 | 100.0% |



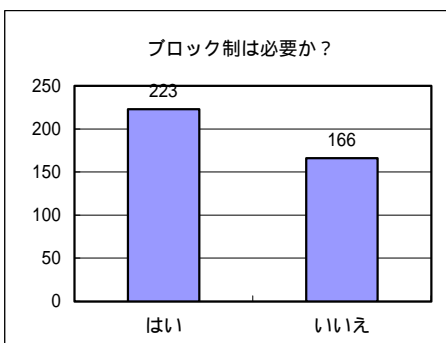
質問3 ブロック選択への関心

| | | |
|-------|-----|--------|
| 1 はい | 331 | 82.3% |
| 2 いいえ | 70 | 17.4% |
| 無回答 | 1 | 0.2% |
| 計 | 402 | 100.0% |



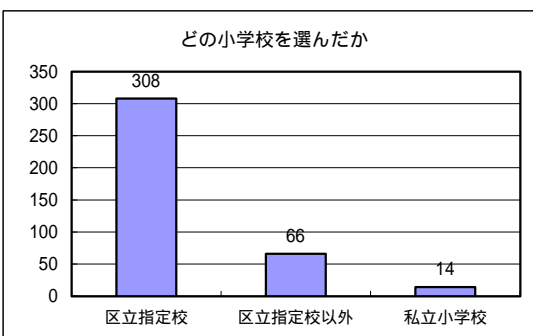
質問4 この制度が必要か？

| | | |
|-------|-----|--------|
| 1 はい | 223 | 55.5% |
| 2 いいえ | 166 | 41.3% |
| 無回答 | 13 | 3.2% |
| 計 | 402 | 100.0% |



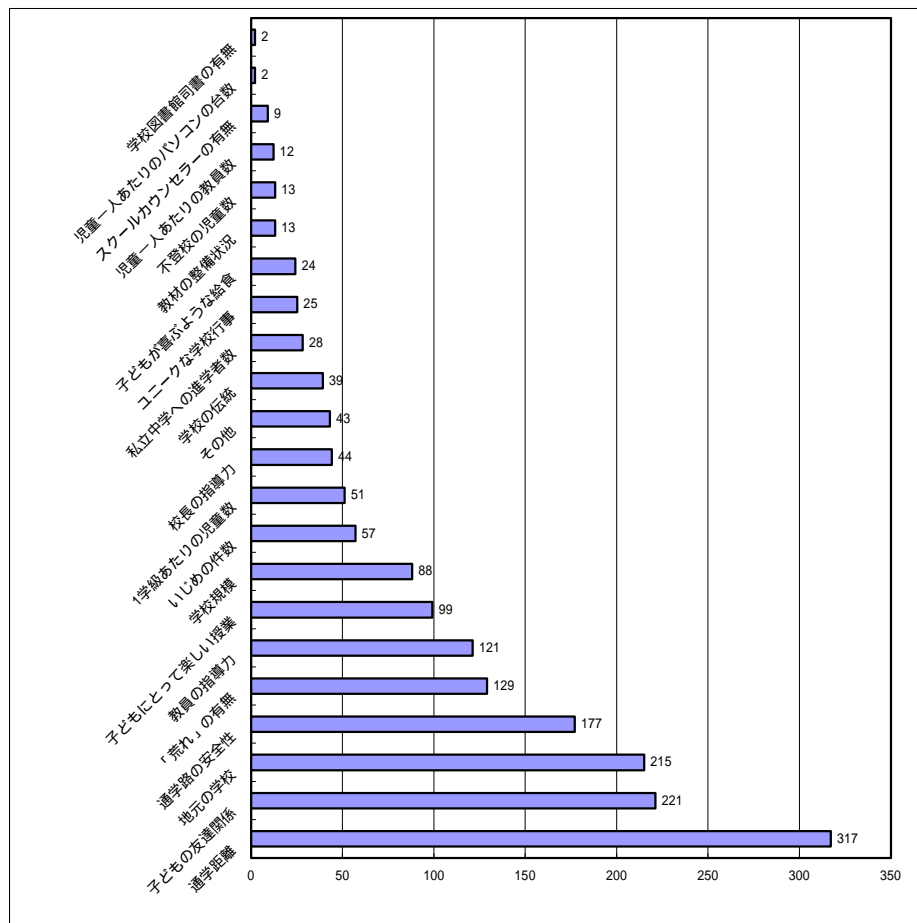
質問5 どの小学校を選んだか

| | | |
|-----------|-----|--------|
| 1 区立指定校 | 308 | 76.6% |
| 2 区立指定校以外 | 66 | 16.4% |
| 3 私立小学校 | 14 | 3.5% |
| 4 無効・無回答 | 14 | 3.5% |
| 計 | 402 | 100.0% |



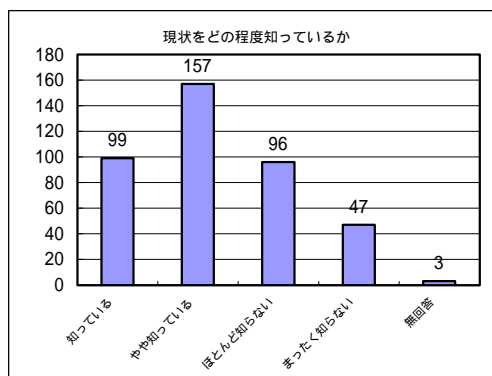
質問6 どのような基準で選択したか

| | | |
|--------------------|-----|-------|
| 2 通学距離 | 317 | 78.9% |
| 4 子どもの友達関係 | 221 | 55.0% |
| 1 地元の学校 | 215 | 53.5% |
| 3 通学路の安全性 | 177 | 44.0% |
| 20 「荒れ」の有無 | 129 | 32.1% |
| 16 教員の指導力 | 121 | 30.1% |
| 17 子どもにとって楽しい授業 | 99 | 24.6% |
| 7 学校規模 | 88 | 21.9% |
| 19 いじめの件数 | 57 | 14.2% |
| 8 1学級あたりの児童数 | 51 | 12.7% |
| 15 校長の指導力 | 44 | 10.9% |
| 22 その他 | 43 | 10.7% |
| 6 学校の伝統 | 39 | 9.7% |
| 5 私立中学への進学者数 | 28 | 7.0% |
| 18 ユニークな学校行事 | 25 | 6.2% |
| 14 子どもが喜ぶような給食 | 24 | 6.0% |
| 13 教材の整備状況 | 13 | 3.2% |
| 21 不登校の児童数 | 13 | 3.2% |
| 9 児童一人あたりの教員数 | 12 | 3.0% |
| 11 スクールカウンセラーの有無 | 9 | 2.2% |
| 10 児童一人あたりのパソコンの台数 | 2 | 0.5% |
| 12 学校図書館司書の有無 | 2 | 0.5% |



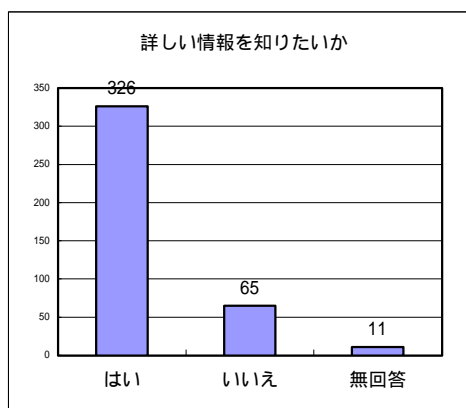
質問7 6の現状をどの程度知っているか

| | | |
|------------|-----|--------|
| 1 知っている | 99 | 24.6% |
| 2 やや知っている | 157 | 39.1% |
| 3 ほとんど知らない | 96 | 23.9% |
| 4 まったく知らない | 47 | 11.7% |
| 無回答 | 3 | 0.7% |
| 計 | 402 | 100.0% |



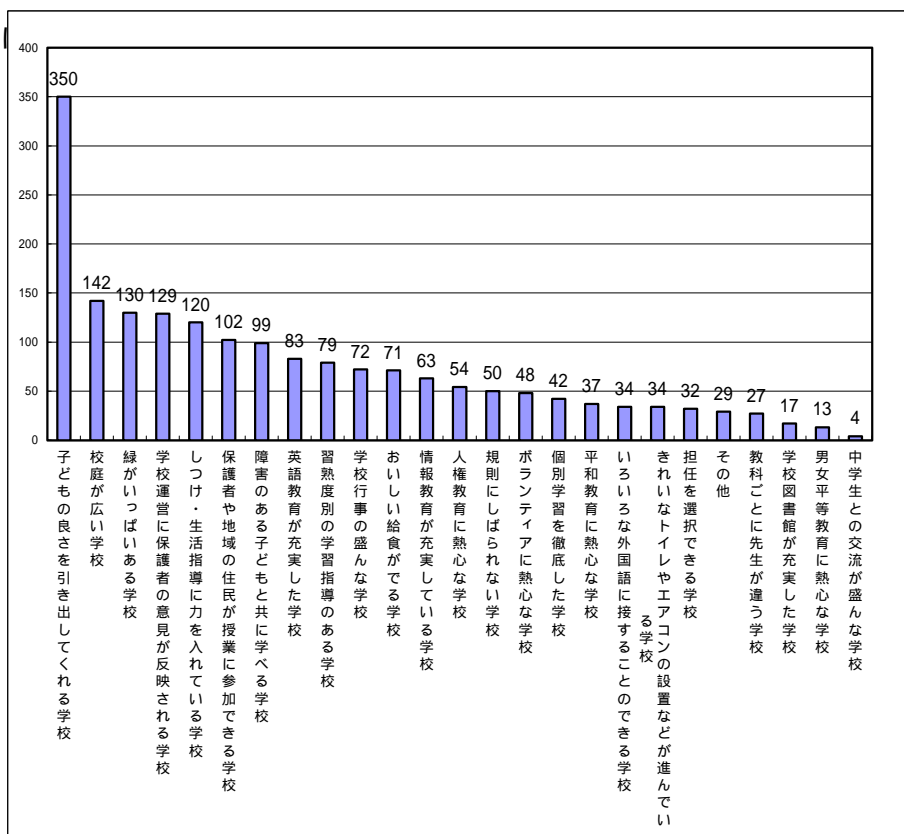
質問8 6の詳しい情報を知りたいか

| | | |
|-------|-----|--------|
| 1 はい | 326 | 81.1% |
| 2 いいえ | 65 | 16.2% |
| 無回答 | 11 | 2.7% |
| 計 | 402 | 100.0% |



質問9 どのような小学校が子ども

| | | | |
|----|---------------------------|-----|-------|
| 17 | 子どもの良さを引き出してくれる学校 | 350 | 87.1% |
| 23 | 校庭が広い学校 | 142 | 35.3% |
| 24 | 緑がいっぱいある学校 | 130 | 32.3% |
| 15 | 学校運営に保護者の意見が反映される学校 | 129 | 32.1% |
| 19 | しつけ・生活指導に力を入れている学校 | 120 | 29.9% |
| 14 | 保護者や地域の住民が授業に参加できる学校 | 102 | 25.4% |
| 11 | 障害のある子どもと共に学べる学校 | 99 | 24.6% |
| 8 | 英語教育が充実した学校 | 83 | 20.6% |
| 5 | 習熟度別の学習指導のある学校 | 79 | 19.7% |
| 2 | 学校行事の盛んな学校 | 72 | 17.9% |
| 21 | おいしい給食がでる学校 | 71 | 17.7% |
| 7 | 情報教育が充実している学校 | 63 | 15.7% |
| 10 | 人権教育に熱心な学校 | 54 | 13.4% |
| 18 | 規則にしばられない学校 | 50 | 12.4% |
| 4 | ボランティアに熱心な学校 | 48 | 11.9% |
| 3 | 個別学習を徹底した学校 | 42 | 10.4% |
| 12 | 平和教育に熱心な学校 | 37 | 9.2% |
| 9 | いろいろな外国語に接することのできる学校 | 34 | 8.5% |
| 22 | きれいなトイレやエアコンの設置などが進んでいる学校 | 34 | 8.5% |
| 6 | 担任を選択できる学校 | 32 | 8.0% |
| 25 | その他 | 29 | 7.2% |
| 1 | 教科ごとに先生が違う学校 | 27 | 6.7% |
| 20 | 学校図書館が充実した学校 | 17 | 4.2% |
| 13 | 男女平等教育に熱心な学校 | 13 | 3.2% |
| 16 | 中学生との交流が盛んな学校 | 4 | 1.0% |



| No. | 質問6 その他 |
|-----|---|
| 1 | 目黒区区域内 |
| 2 | 主人の通っていた小学校 |
| 4 | もうすでに上の子どもが区域の学校へ通っているから |
| 6 | 兄弟が通っているの |
| 7 | 兄と同じ学校 |
| 8 | 区のモデル校である |
| 10 | 兄が通っているの |
| 11 | 兄が通っているから |
| 24 | これから選ぶとして(質問6以降) |
| 25 | 学校から受ける雰囲気 |
| 26 | 少子化にともない1学年1クラスのがっこうもあり、これではさみしいと思います。学校の広さ(校 |
| 30 | 生徒の居住区域(下町の人とはあまり親しくしたくない) |
| 33 | 幅広い児童の受け入れ(障害児、外国人など) |
| 34 | うちの子はまだ2歳ですので解りません。 |
| 35 | 自分も卒業した小学校だから |
| 36 | 姉が私立に遊学しているので妹も同じにしたい |
| 38 | 父親の母校だから |
| 47 | 通う幼稚園からの(卒園母)情報 |
| 54 | 1学年上の兄の学校 |
| 56 | 父親の学校 |
| 61 | 8には関心あり |
| 62 | 評判 |
| 74 | 障害児学級の内容 |
| 79 | 姉が通っている小学校だから |
| 81 | 明るい学校(子どもたちが元気で明るい) |
| 83 | 地域の重要性・地域全体で子どもを見守る姿勢がある |
| 84 | 兄と妹が通っている学校 |
| 90 | 親としては457などを考えましたが、就学時健診を指定校で受けたため、子どもが強く希望して。 |
| 95 | 姉が行っている |
| 106 | どちらかというとなじみのある地域である。 |
| 110 | 在学生の校外での様子(公園などでの態度など) |
| 114 | 親の出身校 |
| 119 | 学校の評判と教員の熱心さ |
| 122 | 親も同じ学校 |
| 123 | 兄が通っている |
| 124 | 兄たちが通っている |
| 128 | 母親の母校であるから(出身校) |
| 129 | 父親の母校で姉も通学注 |
| 236 | 2 |
| 279 | 3年後のことなので希望を記入しました。 |
| 281 | 学校のムード |
| 287 | 兄弟が通っているから |
| 309 | 近所で通学している児童のいる方々の評判 |
| 321 | 指定校なので |
| 349 | 母親の友人関係 |
| 381 | 学校周辺の環境 |
| 385 | 地元の風評 |
| 397 | スポーツクラブなどの課外活動 |

| No. | 質問9 その他 |
|-----|--|
| 2 | 子どもがのびのびできる学校 |
| 3 | どの家庭でも洋式トイレ、エアコンが入っている時代に、外からの人、教職員、女子の方には洋式トイレがあるのに男子の方には和式だけで今年から設置というのは、低学年子どもを持つ親として心配です。 |
| 5 | 自分も人も大切にできる子を育ててくれる学校 |
| 9 | 先生が何年かで代わってしまわない学校 |
| 11 | 先に保護者に気持ちや考えを聞いた上でこの制度を決めればいいのに、順番が逆だと思う。学校の資料も少なく、見学期間も短く、現状が解らない。人のうさわだけ先行して片寄りが出たと思う。ほとんどの保護者の方が不満や不安を持たれていると思う。また、中学校もこの制度になるそうですが、実行する前に保護者の方々の意見を良く聞き、教育委員会の方で慎重に考えていただきたい。(人気のある中学校が定員オーバーになったとき、試験するのか、抽選になるのか、もとの通学区域の方が優先になるのか、疑問です、変1クラスの人数がそれほど多くない。 |
| 12 | きれいなというよりは、学校、保護者、子ども、地域で協力して手を加えて整備している学校。 |
| 23 | 学校は色んな事、人に触れ、多くのことを吸収する場だとかがえています。 |
| 26 | 学校は色んな事、人に触れ、多くのことを吸収する場だとかがえています。 |
| 36 | どんなに良い教育理念をかかげていても、結局は担任の力量、性格によって大きく違ってくるので、心の立派な先生が大勢いる学校がよい。 |
| 37 | 動物を飼育し、世話をさせて命の大切さを教えられる学校。情操教育 |
| 42 | 複数クラスが適正な人数 |
| 48 | 1人1人の個性や意見を認めたり、聞く耳を持っている教師のいる学校。 |
| 61 | よく学びよく遊べる学校。元気に通ってもらえればよい。 |
| 70 | 校長、教員が子どもに熱心な学校 |
| 71 | 子どもの意見が反映された学校行事のある学校 |
| 81 | 先生のいじめのない(子どものいじめだけではない)なぜなら私は先生のいじめにあったため、またそういう先生のいじめ方もみけされてしまう。 |
| 86 | 担任がほぼすべての科目を教えるのは無理がある。色んな先生に接してもらいたい。 |
| 95 | 一所懸命ない先生がいる学校。基本的に楽しい学校 |
| 102 | アメリカなどの教育方針が良いものは日本ももっと、取り入れて行くべきだと思う。 |
| 103 | 14.15.17 |
| 104 | 児童数が多い学校、1学年2クラス以上あって欲しいです。 |
| 106 | 教科だけでなく様々な体験を通していろいろ学べる学校 |
| 107 | 清潔な校舎、教室は最低限必要なものです。保護者が希望すればいつでも参観できることも。 |
| 108 | 学年を超えて縦割りでの活動をする。 |
| 110 | 子どもの良いところを伸ばして悪いときはきちんとしかってくれる教師のうむ |
| 111 | すべての項目に合う学校があればよいが、上野5つ以外で、4, 7, 8をぜひ付け加えたい。 |
| 116 | 心のつながり |
| 119 | 子ども一人ひとりの個性を大切にしてくれる学校 |
| 120 | 保護者と担任の先生が日頃から話し合う場をもち、交流が盛んな学校。また、道徳に時間を増やし大切にす |
| 121 | 1クラス20人以下の少人数制 |
| 125 | 外国語教育よりももっと国語、特にことばに力を入れて欲しいです。 |
| 127 | 先生お一人お一人の持ち味や良さを認め、先生同士が仲の良い学校。伊藤小はいいですよ。特に校長先生がよいのです。だから先生方もやりやすいと思います。 |
| 132 | 個性を尊重する学校 |
| 135 | 今回のことで本当は23人いれば指定校にしたが、あまりの人数で他を選んでしまった。移りたい人だけが越境すればよいと思った。ブロック化反対。 |
| 281 | 子どものことが大好きな先生がたくさんいる学校 |
| 291 | 英語を教える先生が初めて英会話を習うというような英語教育にならない方がよい。 |
| 301 | いじめのない一人ひとりの居場所のある教育 |
| 303 | 行事などありすぎて毎日時間におわれすぎるようなのは嫌です。 |
| 309 | 先生がその学校を好きであって欲しいです。転勤させられ、嫌々来ているというのは子どもに悪い影響が出 |
| 311 | いじめや他の問題が生じた時に世間体ばかり考えないで、本当に子どものことをきちんと教育し、考えて対処してくれる職員がいる学校。 |
| 317 | 近くの友達と行ける学校。隣なのにバラバラの区立になることはないと思います。競争心が出てきそうで地域のつながりがなくなりそう。 |
| 327 | 英語教育は外国の方にやっていただきたい。 |
| 329 | 長女入学に当たり、何校か小学校を見学したが、どこも女の先生が圧倒的に多く驚いた。男の先生は1人2人見かけたくらいだった。やはり、男女のバランスがとれた小学校が良いので、先生の男女の割合、年齢(何十代くらいでもいい)なども公表して欲しい。(いずれも移動もあるにせよ) |
| 347 | 生徒と教師がともに歩んでいける学校 |
| 349 | 心の教育に熱心な学校 |

| No. | 「その他」自由記述 |
|-----|---|
| 6 | 小学1年生ですと、徒歩通学に限られていますので、特別悪い学校でない限り、近くの小学校に通ってしまう。 |
| 9 | 選択制になっても、各学校の情報がわからないので（学校公開の日に行っても内情まではわかりづらいので）資料などを配っていただけたらと思います。 |
| 10 | 今回は学校を選択するための情報が少なすぎて選ぶには難しかったようです。悪い情報は学校がかくすのではないかと、反対に変なうわさが広がることもあるのではないかと心配です。 |
| 12 | まだあまり情報がないので、今年度の状況も知らせて欲しいです。また、良い小学校とされ、人気のあるところに人数が集中した場合、かえってよくないのでは...と心配になります。その場合の対処も知りたいです（人数制） |
| 13 | 学校長の考えが学校の方針を決定すると思えるが、校長が転任になった場合はその考え方（方針）が継続されるかどうか不安である。 |
| 14 | 選択制には賛成だが、せっかく選んだ学校の校長先生が3、4年でかわってしまうと学校のカラーもかわってしまい残念なので何とかして欲しい。 |
| 15 | 学校を選択するために必要な情報が公開されていないと思う。 |
| 16 | 公立学校で学校別のカラーを出すことができるか疑問。先生の移動で特に校長先生の異動でカラーがすぐ変わってしまうのではないのでしょうか。 |
| 17 | もともと児童数の少ない学校が嫌われる傾向にあるのが気になる。（いくら設備が整っていても2クラス以上が） |
| 18 | 私立の学校のように特色を出していくのは難しいと思う。（校長や教員の入れ替わりがあるので） |
| 19 | 自由に学校を選べるのはよいことだと思うが、全くと言っていいほど事前に情報が入らなかった。もっと、正しい |
| 20 | 人気のある学校とそうでない学校間で学力や先生のやる気などに影響が出ないか心配です。 |
| 21 | 現在、居住している地区にある小学校に大変満足していますが、この制度によりどのように変化していくか不安 |
| 22 | 学校の数を減らすために私たちが利用されているように思える。 |
| 25 | 近いのに別の学校に行かなければならないなどの問題は解決するけど、どういう趣旨で区がやるのかどういう方向に持っていかうとするのかが、全く伝わってこない。 |
| 26 | 各学校、教員の活性化につながると考えている。しかし、教員の異動が多いと意味のない制度。学校は教員の個性が強くなる方が特色があり、おもしろいと思います。 |
| 27 | 学校選択ができるようになって、1つの学校に児童が集中するケースが出ているように、他の学校との児童数のバランスが悪くなっているように思う。 |
| 28 | 今、何かと話題になっている学校選択制ですが、父母の立場から言うと、かえって自由に選べというのは、とても難しいことだと思います。むしろ、公立なのだから、もっと地域ごとのつながりを深めるため、今までのように学校の区域が決まっている方が子どもたちも近くの友達がたくさんに遊ぶのに良いと思います。今回のこの制度は、品川区が小学校の統廃合を意識していると考えさせるをえません。 |
| 29 | 転居先の麻生区では、学区が決まっているようですが、公立でも選択できればいいなと思っています。 |
| 30 | 学校によってもっと特色をもってもらい、その上で選択できるようになって欲しい。 |
| 31 | 評判の悪い小学校は廃校になってしまうと思う。（子どもの人数が少なくて）どんどん統合されて、小学校の数が少なくなる不安。もしかして、近くの小学校が廃校になったら、通学の心配。 |
| 32 | パソコンの数や校舎の設備などで決められては片寄りが出てしまう。お互いが競争して、よりよい素晴らしい学校になるのなら望ましいが、親の噂などに左右されてしまうのがほとんどではないかと思う。 |
| 37 | 新制度によって地元の学校がなくなるかもという危機感もないわけではないが、この制度によりいろんな事情をかかえる子どもたちがベストな学校を選んで、より充実した学校生活が遅れるようになれば結構な事だと思う。 |
| 38 | 地元（近所）の友達を作るとすることで基本的には選択制には反対です。しかし、今は離れて住んでいるがゆくゆくは、この地元に戻ってくるとか、その他いろいろいる事情がある人には例外的によいと思います。 |
| 39 | 私立が目目される中、このような制度ができ活性化されることは良いことであるが、誰でも受け入れられるよう |
| 40 | とても興味のあるアンケートです。大変な事と思いますが、これからの子どもたちのためにもよろしくお願いい |
| 41 | それぞれの学校の現状をしらないので入学前に色々知りたい。 |
| 42 | 上の子を学区外に通わせています。もう一年早ければ手続きが楽だったのですが。 |
| 43 | 子どもの数が減り、1クラスまたは2クラスしかないのを疑問だが学校の特色が明確でないのに、ブロック化するのさらさら疑問だ（何を根拠に学校を選んだら良いのか）。統廃合するための準備でしょうね。品川区は「子どもにお金をかけない」と言っているが、子どもを安心して産み育てられるようにして欲しい。そうしないと児童 |
| 44 | ブロックが東西にとられていたため、南北に隣り合わせの学校は別ブロックとなっていたのが不自然だった。 |
| 45 | まだ子どもが小さいのであまり実感がありませんが、興味はすごくあります。情報が保護者にどれだけはあるか |
| 46 | 結局の所近いが、友達が勢行く学校にするとと思う。 |
| 47 | 就学前に学校公開などを設けているがまだまだ情報不足の感があります。この選択制の良い点、悪い点についてもしっかり知りたいです。 |
| 48 | 質問4に対して1と書いたのは、入学した学校にいじめにあたり、不登校（少し別問題かも）の時、ブロック内であれば、転校が以前より容易くできると思ったため。それ以外での必要性はあまり感じません。統廃合を目 |
| 49 | 学区の境に住んでいて今までのお友達はA校に入学し、自分もA校に方が通学の面でも近いのに、B校の区域のためB校へ入学。という人にはとても良い制度（他校へ合併）と思うが、それ以外の人には学校の中味は見えないので選択の方法が困難。クラス数などが少ないので他の学校を選んだりしたら、この学校はますます少子 |
| 50 | 学校選択に際して、それぞれの学校の特色を知る手がかりとなるような学校案内のようなものが出されていない様なので、新しい制度としては中途半端なやり方を感じる。 |
| 51 | 選択といわれても、具体的にどの学校がどうだという情報がないと解らなくて困る。 |
| 52 | 学校が選択できる各学校に違いがあるのでしょうか。そして選択できる情報が公開されているのでしょうか。子どもは地元の家から近い学校に入れるのが一番だと思います。ただし、学区の境界にあたる人はどちらでも選べ |
| 53 | 格差が広がり、地元に入れたくてもあまりレベルが低いと、嫌でも他へいれなければならない。 |

| | |
|----|---|
| 54 | 本来の目的は経費節減のための学校つぶしだと考えます。公立校は予算上、教員が入れ替わることから、大きな格差は無理だと思えます。学校を減らすことは少子化に伴い、やむを得ないが地域とのつながりの良さも気づか |
| 55 | 選択制（通学区域のブロック化）をしてしまって本当に良いのでしょうか。良い面より悪い面をもっと見て子どもにとっての教育をして下さい。 |
| 56 | そこまでしなくて良いんじゃないかと思う。親がなんでも決めてしまうから自立できない子どもが増えるんじゃない |
| 57 | 学校を選択制することによって、おこる様々な問題点を考えると不安が多く、品川区の方針にほとんどの住民が納得できていない状態にあると思えます。学校選択制だけでなく品川の子どもたちにとって悪い環境になりつつあります。区民の意見をしっかり受け止めてもらえていないと思えます。 |
| 58 | 施行を通り越して実施になって今後どのように変わっていくのか不安は多少ある。ニーズといえどもここ数年の急激な変化はとまどいを感じる。 |
| 59 | 特に必要性があるとは思えない。 |
| 60 | 必要ない |
| 61 | 同じマンションで過去十数年にわたり、3カ所の小学校に通える場所なので特別何も感じない。ただ、学校によ |
| 62 | 人気のある学校、ない学校と片寄りが出てくるのではと心配です。 |
| 63 | 区立までも選択制度になってしまうと、そのうち学校によって人数が片寄ってしまったら、入りたいところに入れなくなったりする可能性もあり得ると思えます。小学校では子どもが選択するわけじゃなく、親が選択 |
| 64 | 学校の噂などによって人数が片寄ったりしないか。入学してからの転校はできるのか。 |
| 65 | 将来学校の生徒の人数が大幅に増減した場合の対処法は考えてあるのか知りたい。 |
| 66 | 品川区教育委員長の野心から出た発案ではないかと思え愉快ではない。選択制以前に30人学級の実施など、本当に意味のある子どものためになる今やるべき事柄が多いはず。公立校の良さは、どこでも公平に良質な教育が受けられることであると思うが、各校が無理に特色を出そうとするあまり、実は子どもが見えなくなっているよう |
| 67 | ブロック制の選択よりも、境の人達をもっと大切に、越境入学制度を緩和した方が良いのではないでしょう。目の前に学校があるのに、遠くの学校へは行かせないでしょう。（私立は別です） |
| 68 | 比較的近くでも学区ではないため、通えないのは残念である。この集計結果を区内幼稚園、保育園を通して公表していただけると嬉しい。 |
| 69 | アンケート集計結果に興味があります。品川区の広報新聞にでも掲載していただけると嬉しいです。 |
| 70 | 人数が少ないせいか「親とこのふれあい」を名目にやたら保護者が学校に行く回数や手伝うことが多い。もっと学校は「子どもと先生の社会」として、親と離して指導して欲しい。 |
| 71 | スタート前にこのようなアンケート調査があるべきと感じます。 |
| 72 | 学校選択制について伝々する以前の問題として、児童数の割りに学校数が多すぎる気がする。学校も大胆なリストアを行い、優れた教員のみを残すべきではないか。 |
| 73 | 小学校入学について区立か私立か悩んでいるところ。共働きのため、私立だと放課後児童をどうするかが問題。 |
| 75 | 学校選択にブロックがあるのはどうかと思う。 |
| 76 | ブロックにわけることに意味がないと思う。選択するなら品川全域にすべき。 |
| 77 | ブロックはいらないのでは、区内で選んでいけるようにしてほしい。私はブロックのはしの方、選びようがない。他の遠すぎるブロック外ではすぐ近くに学校があるのに... |
| 78 | ブロック化でなく家から半径何キロメートル以内という分け方が良かった。 |
| 79 | 区外への学校選択も自由にできるようになるといいと思う。小学校が品川の方が近いのに、大田区になるため、小学校が別になるというケースがよくあります。 |
| 80 | 18年前私もこの地区に就学していました。指定校制でありながら、越境通学も多かったです。指定校制が無意 |
| 81 | 学校を選択できることは、良いとは思っていますが、地域が距離的なことを考える地域性とは周りの人からなぜ学区の学校に行かせないのかとか、親はよいけれど子どもに聞かれたりとか、色々回りの環境が別視されることにより家族みんながほんろうされるのでは... |
| 82 | 子どもの学習意欲・学校教育の向上のためであるならば喜ばしい事だと思いますが、ただ制度が変わっただけでは重要な人間の尊重には至らないのでは、との不安もあります。管理教育から学びあう学校教育に変化してほしいと願っています。社会、家庭全体が参加（協力しあえる）できる環境であってほしいです。 |
| 83 | 選べるという可能性は良いと思う。学校を選んだという責任をおやも持つべきだ。 |
| 84 | 自分の一生の中で大切な6年間の思い出を作れる場所を自分で決められるようになったのはすばらしいことだと思う。私は山中小（山中小のプールは屋上にある）出身でも大井第一小に通う子どもたちが少しいらやましい。校庭が広くプールで水をこぼしても気を使わなくてすむ。のびのびできそう。 |
| 85 | 学校選択制については賛成ですが、娘の入学までまだ2年あるので、その間にいろいろな学校の特色を知る機会があれば良いと思えます。お友達は（お母様）通学路の安全性に不安があったようです。 |
| 86 | 家を一步出ると品川区になる大田区にすんできます。このような場所なので学校は品川区の小学校の方が近いのに、大田区の小学校にいかなければならない。品川だけでなく近隣区も交えての選択制にしてほしいです。 |
| 87 | 導入によって、教育、地域、保護者の在り方を各々が考える機会に恵まれたことを良しとし、今後に生かされば |
| 88 | 地域で子どもをを育てましようという活動があるのだから、自宅を中心に4、5校から選ぶ方がいいと思えます。このブロックは必要ないと思っています。 |
| 89 | 学校が選択制といってもある範囲内でのことで、自由に選べるわけではないので、結局区立指定校に通うことに |
| 90 | 選択制を聞いてから国立小学校を1校受験し、失敗しました。1年早く知っていれば私立も受験したと思いま |
| 91 | 専修大学より都に申し出て下さい。悪いうわさばかり広まり渦中の子どもたちの精神ダメージはひどいものです。品川区の教育長も事務的な態度で人の心をしらすぎます。 |
| 92 | 本当に自由に学校を選んで良いならブロック制にしても意味がない（区内のどこの学校でも選んでよいこと |
| 93 | 近所の友達と違う小学校になる可能性も多くなる今回の制度には反対です。また、遠い学校へ通わなくてはいけない子どもにとっても大変な通学をしいられるのは可哀想だと思えます。 |
| 94 | 選択によって児童数に差がでてくるが、増減にかかわらず1クラス40人で区切ってしまうと何もメリットがな |

| | |
|-----|--|
| 95 | 何のために選択制にしているのかよく解らない。親の間でいるんうわさが飛び交い、また細かい所まで聞かれたし、私にとっては迷惑な面が多い。来年一緒の学校だね。なんて言っていた従兄弟が別の学校へ行くことにな |
| 96 | 質問3で関心がないとしたのは、たまたま指定校が良かったためです。公立小学校はあまり、「うちにきて下さい」という態度でしてほしくないです。お客様あつかいされるとかえって信用できなくなります。 |
| 97 | あまり必要ないと思う。 |
| 98 | 元々児童数が少ない学校の今年の入学予定者数もやはり少なく区は統廃合目的でやっているのではないかと疑問の点もある。区の本当の目的は何であるのかを知りたい。また、その学校が他の施設になる予定であるという噂も流れているので、ますます行こうと思う親もいなくなっているよである。 |
| 99 | 何を目的とした誰のための制度なのかわからない。事前の説明が何もなく勝手にどこかで決められた感じがす |
| 100 | 今までも希望すればして指定校以外にも通学できたので、選択制を制度化した目的は、学校の統廃合ではないかと思ってしまう。より人気のある学校へ行ってしまうような気がする。 |
| 101 | すでに兄弟が通っており、現在の学校に特に不安や問題を感じないため、最初から他の学校を選択するつもりはなかった。自由化により学校間格差が広がり、いい学校とそうでない学校にわかれてしまうような気がする。知覚にすむ子どもたちが別々の学校に行くようになると親同士のつながりは希薄になり、学校と町会、地域の結びつきも薄れてしまうのでは内でしょうか。小学校での自由化は必要ないと思う。 |
| 102 | 学校選択制は、とても良い考えだと思います。選べる自由はいろいろな面でプラスになることの方が多いと思 |
| 103 | 「通学区域のブロック」だけじゃなくて、全区の学校選択制に選択してできてがよいと思います。 |
| 104 | 廃校にしないそうですが、児童数が少ない小学校は近隣の学校と合併して、児童数を多くなるようにしてほしい |
| 105 | まだ、はじめての試みにて、善し悪しはつけられないのであろうが、何かにつけて閉鎖性を問われていた学校をオープンにして第一歩として評価すべき価値あり。段階的に他地域にも広がってほしいです。 |
| 106 | 学校選択制により、小学校が良い方向で活性化されることを大いに望んでいます。 |
| 107 | この制度には賛成です。教師によってクラスは全く異なったものになると思います。1つのクラス、教室をどの学校へいっても安心できるようになるのではと思います。 |
| 108 | ブロック化にせず、区内の小学校全校を選択の対象にすべきだと思います。 |
| 109 | 教師の質の向上のためにも良いと思う。今後どのような効果がみられるのか期待。 |
| 110 | 転校などを自由にできるのはよいと思うが、入学前から選択できてあまり関係ないと思える。 |
| 111 | 選択制については賛成だが、そのための情報が少なすぎる。各校ともに、授業見学など、盛んに行っているがそれだけでは学校の本当の姿が見えてこない。どのようにして学校を選んだら良いのか、私にも解らないが、学校側もどのように生徒を集めれば良いのか解らないのではないだろうか... |
| 112 | 同一区内の学校でもやはりその地区地域ごとで差があると思うので、今回の「学校選択制」には賛成です。 |
| 113 | 学校だけでなく先生を選択できるようにしてほしい。学校のカラーがわかる本、資料を配ってほしい。 |
| 114 | ブロックに分けるのを無くし、前学校を自由に選択させてほしい。 |
| 115 | 区立では先生次第、学級崩壊も先生次第だといわれている。生徒や保護者が先生を評価するシステム(マイナス判定続くと減給するシステムとか)があればもっと現況を良くすることができるかと確信する。 |
| 116 | 私が小学校の時、何がなくて不満だったことはなく、おこられたこと、誉められたことが一番頭に残っているので、足りなければたせばいい。 |
| 117 | 情報が欲しい。 |
| 118 | 選択制になっても一番知りたいいじめ、教員の質まで公開は無理でしょう。(学校の生き残りがかかっているよ |
| 126 | 選べるだけに逆に迷ってしまう。もっと詳しい情報や学校の特徴などを知りたい。 |
| 127 | 情報に振り回されて、家に帰ってから友達のいないような学校へ子どもを行かせている(現に越境している友人がいますが)のはとてもかわいそうです。いじめと荒れさえないのなら近い学校外地版です。ブロック化は統廃合の第一段階ではという父兄がたくさんいます。「教育委員会の方がいくらそんなことはありません。といっ |
| 128 | あまりにも制度として突然すぎる感じがする。選べといわれても、一体どんな学校なのかわかりづらい。先日のクローズアップ現代(NHK)での品川区教育委員会委員長の若月氏の説明は全然要領をえてなかった。不信感 |
| 129 | 学校を選ぶ情報がほとんどなく、質問6で書いた理由以外に選ぶ基準がない。今後それぞれの学校の現状アピール等を見て、選べるシステムにしないとブロック化の意味がない。 |
| 130 | 情報が欲しい。各学校の個性がはっきりしない。 |
| 131 | 各学校また、校長をはじめ指導教員の個性、特性、考え、その努力をはっきり出していくべきである。でない |
| 132 | 選択制を導入するからには、選択の基準となる情報をもっと父兄に提供すべきであると思う。 |
| 133 | 正しい情報が入ってこないで、少し不安はあります。学校見学などの方法はとれるのでしょうか。 |
| 134 | 学校自体をあまりアピールすることなく自然のままの学校であって欲しい。親の意思も大事であるが、学校の良さを知っているのは通っている人の子ども意見や先生方だと思 |
| 135 | 指定校は予定では23人でしたが、一人減り、二人減り、目に見えて周りの人が移動してしまい、11人になってしまい、ブロック内ではなく一番近い学校に越境入学することにしました。 |
| 136 | ブロック化は作らない方がよいと思う。 |
| 137 | 選択により、人数が減ったり、増えたり、2クラス予定が1クラスになったり、40人1クラスと21人1クラスの違いについてもっと考えていただきたい。 |
| 138 | この制度について必要か否かは正直なところわからないです。 |
| 139 | 4月から子どもが入学する学校は1年から6年まで1クラスしかない小規模であることに大変不安があるが、子どもが一人で通える範囲内で際立った特色のある学校があれば別だが、それ以外でよほどいじめや荒れ等の悪い要素がない限り、通学距離が最大の決め手となると思う。今後特色ある学校づくりに期待したい。 |
| 140 | この制度を是非推進して欲しいと思います。質問8を公表し選択でいる公立校が望ましいと思います。 |
| 141 | 品川区だけでなく隣接する区(大田区)の学校にも自由に行ける様にしてもらいたい。境目に住んでいると隣の区の学校の方が近い場合もあるので。 |

| | |
|-----|--|
| 142 | 現実にブロック化で選択する幅が広がっても、実際に生きたい学校がすぐ近くでも、ブロック外で学校のブロックの考え方、作り方に問題あり。 |
| 143 | それよりもクラス数を多く、また多くの友達と接せられるように学校の統合を進めてもらいたい。少子化が進む中、今の数の小学校は必要ない。小学校の数を減らしなおかつ選択できるシステムがよいと思う。 |
| 144 | 選択制によって学校に子どもが集まり、他校が廃校になったりして、結果的に選択の幅が狭まったりしないかが |
| 145 | 区は否定していますが、小学校の統廃合を目的とした制度のように思えます。担任の先生や校長先生が2, 3年ごとにかわるようでは本当の校風はつくれないのでは。 |
| 146 | 統廃合が目的なのではないでしょうか。 |
| 147 | 親が選択するだけでなく子ども（自分自身）で選択できると良いと思う。子どもはまだ自分自身で判断できる年齢ではないと思いますが... |
| 148 | 子どもは社会が育てるとすれば、学校選択制により、まだ小さい子どもが同一でない小学校に通うことはあまり賛成ではありません。危機管理が心配。 |
| 149 | 行政の通達が先走り、現場の準備（学校側）ができていない様な気がする。越境を希望するのは、親の意見であるように感じる。果たして子どもたちにとって本当に越境は意味があるのだろうか疑問を感じる。 |
| 276 | 選択できるようになっても結局一番近い学校に通わせるようになるので無意味だと思う。 |
| 277 | この制度は結果的に教師の負担を増やしたり質を低下させる恐れがある等という意見を聞いたことがあります。何よりもまず教師の質を上げること。もしその反対の傾向になるならそういう制度はない方がいいと思います。 |
| 279 | 各小学校の特徴など情報公開し、選択する幅を広くして欲しい。 |
| 281 | 子どもの数が減少し、小学校のクラス数も下々減りつつある今、選択制によって小学校が淘汰されていくのも基本的に賛成です。質の向上の機会になるのでは... |
| 283 | 私の住んでいる区域（西品川）は、自分のブロック内は徒歩で通学できるところは少なく、隣のブロックの小学校の方が近く歩いて通学できる小学校がいくつかあり、選択の余地がありますが、越境入学になってしまえば批判チラシを入れるところもあるが、前向きに今回のこの制度を成功させたい。この制度導入を喜んでる人も |
| 285 | 現在、近くに2つの学校があり、距離は同じくらいだが、迷うことなく上の子が行っている学校と決めている。どこの学校も変わりなく見えるし、担任がどうなるかの方が重要、先生の質を高めて欲しい（人間性）。 |
| 287 | いいと思う。学区の教育、学習の向上のため、学校側が努力してくれるのでは？品川区は私立中学へ進学する人も他の区に較べ少ないし、親の考えも現状に満足している人も多いのでいい刺激になると思う。 |
| 289 | ブロック外の近くの小学校に行きたい場合、ブロック化がかえって不都合になる。 |
| 291 | 単なる噂でひとつの学校に集中してしまうケースが多く、児童数が少ない中で問題が多い。正しい情報が親には公開されない現状がある。 |
| 293 | ブロック化はいいことだけど、中流家庭の子どもが行ける距離は限られている。ブロック化ぐらいで話題にするより、もっと学校そのもの中味を取り上げて欲しい。 |
| 295 | 人気のある学校と不人気の学校との差が出てくると閉鎖につながる。 |
| 297 | ブロック化にせず、全区から選択できるようになるとよいと思います。 |
| 299 | 学校選択ができるということは、当然遠方からの通学もあるということでしょうが、通学路の安全性はPTAもしくは、自分たちで守るのは少々心配ですし、公の場からの助けもお願いできないのでしょうか。 |
| 301 | 各学校が自分の学校の方針をしっかりと外へ向けてうちだすのはとてもよいとは思いますが、やりすぎになり、子どもがぐたびれてしまうようでは困ると思います。 |
| 303 | わざわざ受験の盛んな小学校に行かせる親の気持ちが分からない。でもこんな私はいけないのかと不安になる。 |
| 305 | 早期に中学校へも導入して欲しい。ダメ先生でも区立教員ならば地位が保障され、どこかの学校で教鞭をとるのであればその先生に当たったことを不運で考えなければならぬ。この制度の不完全。 |
| 307 | それぞれの学校に何かひとつでも良い特徴があるといったベースができていけるのなら選択も意味あるものに鳴るでしょうが、単にためす学校選びとして使用するのでは、子どもにとって良い結果をもたらすことはないと思います |
| 309 | 調査結果を是非知りたくと思いますので、集計後にお知らせ下さい。 |
| 311 | 選択制にしくても本当に行きたい人は越境して来ると思う。 |
| 313 | 生徒数の片寄りが心配です。（希望学校が今年から1クラスになってしまった） |
| 315 | 反対です。区立は色々な子がいて、平等に学べたらいいのではないですか。私立ではないので特色を持つことはないと思います。近くの学校に行きたくても、もしその学校が勉強熱心すぎて他に楽しみがなかったりして、遠くの学校に行かなくてはならなくなったり、人数が片寄ったり色々問題が出てくるのでは。それより校長や先生がサラリーマン化して、自分のことばかりで子どものことを考えない人が多い。 |
| 317 | 入る前に選んだとしても、その時の同級生とか先生の環境で、思ってもいないことがあるかも知れないので、入るときに自由が利くのもけっこうだが1, 2年過ごした後他の学校にスムーズに移動できないものかと思う。 |
| 319 | もっと、学校の内側を皆に知らせなければ本当の選択制とは言えないと思う。 |
| 321 | 学校選択制には反対です。すべての子どもが平等に教育を受ける権利があります。学校選択制により、学校に格差が出たのでは、権利がここのわかれると思います。将来的に学校の統廃合の問題など心配です。 |
| 323 | 一言学校選択制といいますが、私たちはどのような情報を得られるのかで選択が変わります。今はものすごく不 |
| 325 | 最初は選択制度はいいことと思いましたが、学校によって人気不人気があり、人員が集中したり、逆に児童数が不足する学校も出てくるので、前のような制度が良いのではないのでしょうか。 |
| 327 | 中学受験の実績のある小学校に人気が集った現状を見ると、小学校の進学塾か「お利口な小学校」と「おぼかな小学校」の2極分化が懸念されます。 |
| 331 | いろいろな考え方があるのでよいと思います。質問2でブロックがわかりません。 |
| 333 | あまり知識がないので、これから情報収集したい。 |
| 335 | |

質問 1 : 質問 3

| 1 : 3 | 質問 3 | | | |
|-------|------|----|------|-----|
| 質問 1 | 1 | 2 | (空白) | 総計 |
| 1 | 83 | 27 | | 110 |
| 2 | 105 | 20 | | 125 |
| 3 | 143 | 23 | 1 | 167 |
| 総計 | 331 | 70 | 1 | 402 |

(比率)

| 1 : 3 | 質問 3 | | | |
|-------|-------|-------|------|------|
| 質問 1 | 1 | 2 | (空白) | 総計 |
| 1 | 75.5% | 24.5% | 0.0% | 100% |
| 2 | 84.0% | 16.0% | 0.0% | 100% |
| 3 | 85.6% | 13.8% | 0.6% | 100% |
| 総計 | 82.3% | 17.4% | 0.2% | 100% |

質問 1 : 質問 4

| 1 : 4 | 質問 4 | | | |
|-------|------|-----|------|-----|
| 質問 1 | 1 | 2 | (空白) | 総計 |
| 1 | 60 | 47 | 3 | 110 |
| 2 | 68 | 51 | 6 | 125 |
| 3 | 95 | 68 | 4 | 167 |
| 総計 | 223 | 166 | 13 | 402 |

(比率)

| 1 : 4 | 質問 4 | | | |
|-------|-------|-------|------|------|
| 質問 1 | 1 | 2 | (空白) | 総計 |
| 1 | 54.5% | 42.7% | 2.7% | 100% |
| 2 | 54.4% | 40.8% | 4.8% | 100% |
| 3 | 56.9% | 40.7% | 2.4% | 100% |
| 総計 | 55.5% | 41.3% | 3.2% | 100% |

質問 1 : 質問 5

| 1 : 5 | 質問 5 | | | | | |
|-------|------|----|----|---|------|-----|
| 質問 1 | 1 | 2 | 3 | 5 | (空白) | 総計 |
| 1 | 88 | 18 | 3 | 1 | | 110 |
| 2 | 96 | 21 | 5 | | 3 | 125 |
| 3 | 124 | 27 | 6 | | 10 | 167 |
| 総計 | 308 | 66 | 14 | 1 | 13 | 402 |

(比率)

| 1 : 5 | 質問 5 | | | | | |
|-------|-------|-------|------|------|------|------|
| 質問 1 | 1 | 2 | 3 | 5 | (空白) | 総計 |
| 1 | 80.0% | 16.4% | 2.7% | 0.9% | 0.0% | 100% |
| 2 | 76.8% | 16.8% | 4.0% | 0.0% | 2.4% | 100% |
| 3 | 74.3% | 16.2% | 3.6% | 0.0% | 6.0% | 100% |
| 総計 | 76.6% | 16.4% | 3.5% | 0.2% | 3.2% | 100% |

質問 1 : 質問 7

| 1 : 7 | 質問 7 認知度 | | | | | |
|-------|----------|-----|----|----|------|-----|
| 質問 1 | 1 | 2 | 3 | 4 | (空白) | 総計 |
| 1 | 42 | 49 | 18 | 1 | | 110 |
| 2 | 32 | 53 | 30 | 8 | 2 | 125 |
| 3 | 25 | 55 | 48 | 38 | 1 | 167 |
| 総計 | 99 | 157 | 96 | 47 | 3 | 402 |

(比率)

| 1 : 7 | 質問 7 | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|
| 質問 1 | 1 | 2 | 3 | 4 | (空白) | 総計 |
| 1 | 38.2% | 44.5% | 16.4% | 0.9% | 0.0% | 100% |
| 2 | 25.6% | 42.4% | 24.0% | 6.4% | 1.6% | 100% |
| 3 | 15.0% | 32.9% | 28.7% | 22.8% | 0.6% | 100% |
| 総計 | 24.6% | 39.1% | 23.9% | 11.7% | 0.7% | 100% |

質問 1 : 質問 8

| 1 : 8 | 質問 8 | | | |
|-------|------|----|------|-----|
| 質問 1 | 1 | 2 | (空白) | 総計 |
| 1 | 82 | 27 | 1 | 110 |
| 2 | 98 | 23 | 4 | 125 |
| 3 | 146 | 15 | 6 | 167 |
| 総計 | 326 | 65 | 11 | 402 |

(比率)

| 1 : 8 | 質問 8 | | | |
|-------|-------|-------|------|------|
| 質問 1 | 1 | 2 | (空白) | 総計 |
| 1 | 74.5% | 24.5% | 0.9% | 100% |
| 2 | 78.4% | 18.4% | 3.2% | 100% |
| 3 | 87.4% | 9.0% | 3.6% | 100% |
| 総計 | 81.1% | 16.2% | 2.7% | 100% |

質問 2 : 質問 3

| 2 : 3 | 質問 3 | | | |
|-------|------|----|------|-----|
| 質問 2 | 1 | 2 | (空白) | 総計 |
| 1 | 94 | 21 | 1 | 116 |
| 2 | 89 | 9 | | 98 |
| 3 | 32 | 9 | | 41 |
| 4 | 42 | 6 | | 48 |
| 5 | 51 | 24 | | 75 |
| 6 | 17 | | | 17 |
| (空白) | 6 | 1 | | 7 |
| 総計 | 331 | 70 | 1 | 402 |

(比率)

| 2 : 3 | 質問 3 | | | |
|-------|--------|-------|------|------|
| 質問 2 | 1 | 2 | (空白) | 総計 |
| 1 | 81.0% | 18.1% | 0.9% | 100% |
| 2 | 90.8% | 9.2% | 0.0% | 100% |
| 3 | 78.0% | 22.0% | 0.0% | 100% |
| 4 | 87.5% | 12.5% | 0.0% | 100% |
| 5 | 68.0% | 32.0% | 0.0% | 100% |
| 6 | 100.0% | 0.0% | 0.0% | 100% |
| (空白) | 85.7% | 14.3% | 0.0% | 100% |
| 総計 | 82.3% | 17.4% | 0.2% | 100% |

質問 2 : 質問 4

| 2 : 4 | 質問 4 | | | |
|-------|------|-----|------|-----|
| 質問 2 | 1 | 2 | (空白) | 総計 |
| 1 | 66 | 46 | 4 | 116 |
| 2 | 57 | 39 | 2 | 98 |
| 3 | 19 | 20 | 2 | 41 |
| 4 | 30 | 17 | 1 | 48 |
| 5 | 36 | 38 | 1 | 75 |
| 6 | 11 | 4 | 2 | 17 |
| (空白) | 4 | 2 | 1 | 7 |
| 総計 | 223 | 166 | 13 | 402 |

(比率)

| 2 : 4 | 質問 4 | | | |
|-------|-------|-------|-------|------|
| 質問 2 | 1 | 2 | (空白) | 総計 |
| 1 | 56.9% | 39.7% | 3.4% | 100% |
| 2 | 58.2% | 39.8% | 2.0% | 100% |
| 3 | 46.3% | 48.8% | 4.9% | 100% |
| 4 | 62.5% | 35.4% | 2.1% | 100% |
| 5 | 48.0% | 50.7% | 1.3% | 100% |
| 6 | 64.7% | 23.5% | 11.8% | 100% |
| (空白) | 57.1% | 28.6% | 14.3% | 100% |
| 総計 | 55.5% | 41.3% | 3.2% | 100% |

質問2：質問5

| 2：5 | 質問5 | | | | | |
|------|-----|----|----|---|------|-----|
| 質問2 | 1 | 2 | 3 | 5 | (空白) | 総計 |
| 1 | 94 | 10 | 6 | | 6 | 116 |
| 2 | 72 | 23 | | | 3 | 98 |
| 3 | 31 | 10 | | | | 41 |
| 4 | 36 | 7 | 3 | 1 | 1 | 48 |
| 5 | 59 | 9 | 4 | | 3 | 75 |
| 6 | 11 | 5 | 1 | | | 17 |
| (空白) | 5 | 2 | | | | 7 |
| 総計 | 308 | 66 | 14 | 1 | 13 | 402 |

(比率)

| 2：5 | 質問5 | | | | | |
|------|-------|-------|------|------|------|------|
| 質問2 | 1 | 2 | 3 | 5 | (空白) | 総計 |
| 1 | 81.0% | 8.6% | 5.2% | 0.0% | 5.2% | 100% |
| 2 | 73.5% | 23.5% | 0.0% | 0.0% | 3.1% | 100% |
| 3 | 75.6% | 24.4% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 100% |
| 4 | 75.0% | 14.6% | 6.3% | 2.1% | 2.1% | 100% |
| 5 | 78.7% | 12.0% | 5.3% | 0.0% | 4.0% | 100% |
| 6 | 64.7% | 29.4% | 5.9% | 0.0% | 0.0% | 100% |
| (空白) | 71.4% | 28.6% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 100% |
| 総計 | 76.6% | 16.4% | 3.5% | 0.2% | 3.2% | 100% |

質問2：質問7

| 2：7 | 質問7 | | | | | |
|------|-----|-----|----|----|------|-----|
| 質問2 | 1 | 2 | 3 | 4 | (空白) | 総計 |
| 1 | 34 | 47 | 20 | 15 | | 116 |
| 2 | 21 | 39 | 31 | 7 | | 98 |
| 3 | 14 | 19 | 4 | 4 | | 41 |
| 4 | 13 | 19 | 11 | 3 | 2 | 48 |
| 5 | 12 | 22 | 23 | 18 | | 75 |
| 6 | 3 | 8 | 5 | | 1 | 17 |
| (空白) | 2 | 3 | 2 | | | 7 |
| 総計 | 99 | 157 | 96 | 47 | 3 | 402 |

(比率)

| 2：7 | 質問7 | | | | | |
|------|-------|-------|-------|-------|------|------|
| 質問2 | 1 | 2 | 3 | 4 | (空白) | 総計 |
| 1 | 29.3% | 40.5% | 17.2% | 12.9% | 0.0% | 100% |
| 2 | 21.4% | 39.8% | 31.6% | 7.1% | 0.0% | 100% |
| 3 | 34.1% | 46.3% | 9.8% | 9.8% | 0.0% | 100% |
| 4 | 27.1% | 39.6% | 22.9% | 6.3% | 4.2% | 100% |
| 5 | 16.0% | 29.3% | 30.7% | 24.0% | 0.0% | 100% |
| 6 | 17.6% | 47.1% | 29.4% | 0.0% | 5.9% | 100% |
| (空白) | 28.6% | 42.9% | 28.6% | 0.0% | 0.0% | 100% |
| 総計 | 24.6% | 39.1% | 23.9% | 11.7% | 0.7% | 100% |

質問2：質問8

| 2：8 | 質問8 | | | |
|------|-----|----|------|-----|
| 質問2 | 1 | 2 | (空白) | 総計 |
| 1 | 89 | 23 | 4 | 116 |
| 2 | 88 | 10 | | 98 |
| 3 | 34 | 5 | 2 | 41 |
| 4 | 33 | 12 | 3 | 48 |
| 5 | 63 | 12 | | 75 |
| 6 | 14 | 1 | 2 | 17 |
| (空白) | 5 | 2 | | 7 |
| 総計 | 326 | 65 | 11 | 402 |

(比率)

| 2：8 | 質問8 | | | |
|------|-------|-------|-------|------|
| 質問2 | 1 | 2 | (空白) | 総計 |
| 1 | 76.7% | 19.8% | 3.4% | 100% |
| 2 | 89.8% | 10.2% | 0.0% | 100% |
| 3 | 82.9% | 12.2% | 4.9% | 100% |
| 4 | 68.8% | 25.0% | 6.3% | 100% |
| 5 | 84.0% | 16.0% | 0.0% | 100% |
| 6 | 82.4% | 5.9% | 11.8% | 100% |
| (空白) | 71.4% | 28.6% | 0.0% | 100% |
| 総計 | 81.1% | 16.2% | 2.7% | 100% |

質問3：質問4

| 3：4 | 質問4 | | | |
|------|-----|-----|------|-----|
| 質問3 | 1 | 2 | (空白) | 総計 |
| 1 | 206 | 113 | 12 | 331 |
| 2 | 17 | 53 | | 70 |
| (空白) | | | 1 | 1 |
| 総計 | 223 | 166 | 13 | 402 |

(比率)

| 3：4 | 質問4 | | | |
|------|-------|-------|--------|------|
| 質問3 | 1 | 2 | (空白) | 総計 |
| 1 | 62.2% | 34.1% | 3.6% | 100% |
| 2 | 24.3% | 75.7% | 0.0% | 100% |
| (空白) | 0.0% | 0.0% | 100.0% | 100% |
| 総計 | 55.5% | 41.3% | 3.2% | 100% |

質問3：質問5

| 3：5 | 質問5 | | | | | |
|------|-----|----|----|---|------|-----|
| 質問3 | 1 | 2 | 3 | 5 | (空白) | 総計 |
| 1 | 244 | 62 | 12 | 1 | 12 | 331 |
| 2 | 64 | 4 | 2 | | | 70 |
| (空白) | | | | | 1 | 1 |
| 総計 | 308 | 66 | 14 | 1 | 13 | 402 |

(比率)

| 3：5 | 質問5 | | | | | |
|------|-------|-------|------|------|--------|------|
| 質問3 | 1 | 2 | 3 | 5 | (空白) | 総計 |
| 1 | 73.7% | 18.7% | 3.6% | 0.3% | 3.6% | 100% |
| 2 | 91.4% | 5.7% | 2.9% | 0.0% | 0.0% | 100% |
| (空白) | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 100.0% | 100% |
| 総計 | 76.6% | 16.4% | 3.5% | 0.2% | 3.2% | 100% |

質問3：質問7

| 3：7 | 質問7 | | | | | |
|------|-----|-----|----|----|------|-----|
| 質問3 | 1 | 2 | 3 | 4 | (空白) | 総計 |
| 1 | 75 | 133 | 82 | 38 | 3 | 331 |
| 2 | 24 | 24 | 14 | 8 | | 70 |
| (空白) | | | | 1 | | 1 |
| 総計 | 99 | 157 | 96 | 47 | 3 | 402 |

(比率)

| 3：7 | 質問7 | | | | | |
|------|-------|-------|-------|--------|------|------|
| 質問3 | 1 | 2 | 3 | 4 | (空白) | 総計 |
| 1 | 22.7% | 40.2% | 24.8% | 11.5% | 0.9% | 100% |
| 2 | 34.3% | 34.3% | 20.0% | 11.4% | 0.0% | 100% |
| (空白) | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 100.0% | 0.0% | 100% |
| 総計 | 24.6% | 39.1% | 23.9% | 11.7% | 0.7% | 100% |

質問3：質問8

| 3：8 | 質問8 | | | |
|------|-----|----|------|-----|
| 質問3 | 1 | 2 | (空白) | 総計 |
| 1 | 283 | 39 | 9 | 331 |
| 2 | 43 | 26 | 1 | 70 |
| (空白) | | | 1 | 1 |
| 総計 | 326 | 65 | 11 | 402 |

(比率)

| 3：8 | 質問8 | | | |
|------|-------|-------|--------|------|
| 質問3 | 1 | 2 | (空白) | 総計 |
| 1 | 85.5% | 11.8% | 2.7% | 100% |
| 2 | 61.4% | 37.1% | 1.4% | 100% |
| (空白) | 0.0% | 0.0% | 100.0% | 100% |
| 総計 | 81.1% | 16.2% | 2.7% | 100% |

質問4：質問5

| 4：5 | 質問5 | | | | | |
|------|-----|----|----|---|------|-----|
| 質問4 | 1 | 2 | 3 | 5 | (空白) | 総計 |
| 1 | 155 | 51 | 7 | 1 | 9 | 223 |
| 2 | 145 | 14 | 6 | | 1 | 166 |
| (空白) | 8 | 1 | 1 | | 3 | 13 |
| 総計 | 308 | 66 | 14 | 1 | 13 | 402 |

| 4：5 | 質問5 | | | | | |
|------|-------|-------|------|------|-------|------|
| 質問4 | 1 | 2 | 3 | 5 | (空白) | 総計 |
| 1 | 69.5% | 22.9% | 3.1% | 0.4% | 4.0% | 100% |
| 2 | 87.3% | 8.4% | 3.6% | 0.0% | 0.6% | 100% |
| (空白) | 61.5% | 7.7% | 7.7% | 0.0% | 23.1% | 100% |
| 総計 | 76.6% | 16.4% | 3.5% | 0.2% | 3.2% | 100% |

質問4：質問7

| 4：7 | 質問7 | | | | | |
|------|-----|-----|----|----|------|-----|
| 質問4 | 1 | 2 | 3 | 4 | (空白) | 総計 |
| 1 | 40 | 94 | 60 | 28 | 1 | 223 |
| 2 | 54 | 58 | 35 | 17 | 2 | 166 |
| (空白) | 5 | 5 | 1 | 2 | | 13 |
| 総計 | 99 | 157 | 96 | 47 | 3 | 402 |

(比率)

| 4：7 | 質問7 | | | | | |
|------|-------|-------|-------|-------|------|------|
| 質問4 | 1 | 2 | 3 | 4 | (空白) | 総計 |
| 1 | 17.9% | 42.2% | 26.9% | 12.6% | 0.4% | 100% |
| 2 | 32.5% | 34.9% | 21.1% | 10.2% | 1.2% | 100% |
| (空白) | 38.5% | 38.5% | 7.7% | 15.4% | 0.0% | 100% |
| 総計 | 24.6% | 39.1% | 23.9% | 11.7% | 0.7% | 100% |

質問4：質問8

| 4：8 | 質問8 | | | |
|------|-----|----|------|-----|
| 質問4 | 1 | 2 | (空白) | 総計 |
| 1 | 193 | 25 | 5 | 223 |
| 2 | 123 | 39 | 4 | 166 |
| (空白) | 10 | 1 | 2 | 13 |
| 総計 | 326 | 65 | 11 | 402 |

(比率)

| 4：8 | 質問8 | | | |
|------|-------|-------|-------|------|
| 質問4 | 1 | 2 | (空白) | 総計 |
| 1 | 86.5% | 11.2% | 2.2% | 100% |
| 2 | 74.1% | 23.5% | 2.4% | 100% |
| (空白) | 76.9% | 7.7% | 15.4% | 100% |
| 総計 | 81.1% | 16.2% | 2.7% | 100% |

質問5：質問7

| 5：7 | 質問7 | | | | | |
|------|-----|-----|----|----|------|-----|
| 質問5 | 1 | 2 | 3 | 4 | (空白) | 総計 |
| 1 | 87 | 122 | 67 | 30 | 2 | 308 |
| 2 | 5 | 29 | 24 | 8 | | 66 |
| 3 | 7 | 4 | 1 | 2 | | 14 |
| 5 | | 1 | | | | 1 |
| (空白) | | 1 | 4 | 7 | 1 | 13 |
| 総計 | 99 | 157 | 96 | 47 | 3 | 402 |

(比率)

| 5：7 | 質問7 | | | | | |
|------|-------|--------|-------|-------|------|------|
| 質問5 | 1 | 2 | 3 | 4 | (空白) | 総計 |
| 1 | 28.2% | 39.6% | 21.8% | 9.7% | 0.6% | 100% |
| 2 | 7.6% | 43.9% | 36.4% | 12.1% | 0.0% | 100% |
| 3 | 50.0% | 28.6% | 7.1% | 14.3% | 0.0% | 100% |
| 5 | 0.0% | 100.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 100% |
| (空白) | 0.0% | 7.7% | 30.8% | 53.8% | 7.7% | 100% |
| 総計 | 24.6% | 39.1% | 23.9% | 11.7% | 0.7% | 100% |

質問5：質問8

| 5：8 | 質問8 | | | |
|------|-----|----|------|-----|
| 質問5 | 1 | 2 | (空白) | 総計 |
| 1 | 243 | 57 | 8 | 308 |
| 2 | 62 | 4 | | 66 |
| 3 | 10 | 4 | | 14 |
| 5 | 1 | | | 1 |
| (空白) | 10 | | 3 | 13 |
| 総計 | 326 | 65 | 11 | 402 |

(比率)

| 5：8 | 質問8 | | | |
|------|--------|-------|-------|------|
| 質問5 | 1 | 2 | (空白) | 総計 |
| 1 | 78.9% | 18.5% | 2.6% | 100% |
| 2 | 93.9% | 6.1% | 0.0% | 100% |
| 3 | 71.4% | 28.6% | 0.0% | 100% |
| 5 | 100.0% | 0.0% | 0.0% | 100% |
| (空白) | 76.9% | 0.0% | 23.1% | 100% |
| 総計 | 81.1% | 16.2% | 2.7% | 100% |

質問7：質問8

| 7：8 | 質問8 | | | |
|------|-----|----|------|-----|
| 質問7 | 1 | 2 | (空白) | 総計 |
| 1 | 59 | 36 | 4 | 99 |
| 2 | 138 | 18 | 1 | 157 |
| 3 | 87 | 8 | 1 | 96 |
| 4 | 42 | 3 | 2 | 47 |
| (空白) | | | 3 | 3 |
| 総計 | 326 | 65 | 11 | 402 |

(比率)

| 7：8 | 質問8 | | | |
|------|-------|-------|--------|------|
| 質問7 | 1 | 2 | (空白) | 総計 |
| 1 | 59.6% | 36.4% | 4.0% | 100% |
| 2 | 87.9% | 11.5% | 0.6% | 100% |
| 3 | 90.6% | 8.3% | 1.0% | 100% |
| 4 | 89.4% | 6.4% | 4.3% | 100% |
| (空白) | 0.0% | 0.0% | 100.0% | 100% |
| 総計 | 81.1% | 16.2% | 2.7% | 100% |

質問4「ブロック制が必要か？」の質問に「はい」と答えた人の自由記述回答

No

| | |
|-----|---|
| 9 | 選択制になっても、各学校の情報がわからないので（学校公開の日に行っても内情まではわかりづらいので）資料などを配って |
| 12 | まだあまり情報がないので、今年度の状況も知らせて欲しいです。また、良い小学校とされ、人気のあるところに人数が集中した場合、かえってよくないのでは...と心配になります。その場合の対処も知りたいです（人数制限がどうか） |
| 13 | 学校長の考えが学校の方針を決定すると思えるが、校長が転任になった場合はその考え方（方針）が継続されるかどうかが不安 |
| 14 | 選択制には賛成だが、せっかく選んだ学校の校長先生が3、4年でかわってしまうと学校のカラーもかわってしまい残念なので |
| 16 | 公立学校で学校別のカラーを出すことができるか疑問。先生の移動で特に校長先生の異動でカラーがすぐに変わってしまうので |
| 17 | もともと児童数の少ない学校が嫌われる傾向にあるのが気になる。（いくら設備が整っていても2クラス以上が理想らしい） |
| 19 | 自由に学校を選べるのはよいことだと思うが、全くと言っていいほど事前に情報が入らなかった。もっと、正しい情報が欲しい |
| 25 | 近いのに別の学校に行かなければならないなどの問題は解決するけど、どういう趣旨で区がやるのかという方向に持っていくとするのが、全く伝わってこない。 |
| 26 | 各学校、教員の活性化につながると考えている。しかし、教員の異動が多いと意味のない制度。学校は教員の個性が強くなる方が特色があり、おもしろいと思います。 |
| 27 | 学校選択ができるようになって、1つの学校に児童が集中するケースが出ているように、他の学校との児童数のバランスが悪く |
| 29 | 転居先の麻生区では、学区が決まっているようですが、公立でも選択できればいいなと思っています。 |
| 30 | 学校によってもっと特色をもってもらい、その上で選択できるようになって欲しい。 |
| 31 | 評判の悪い小学校は廃校になってしまうと思う。（子どもの人数が少なくて）どんどん統合されて、小学校の数が少なくなる不安。もしかして、近くの小学校が廃校になったら、通学の心配。 |
| 37 | 新制度によって地元为学校がなくなるかもという危機感もないわけではないが、この制度によりいろんな事情をかかえる子どもたちがベストな学校を選んで、より充実した学校生活が遅れるようになれば結構な事だと思う。 |
| 38 | 地元（近所）の友達を作るということで基本的には選択制には反対です。しかし、今は離れて住んでいるがゆくゆくは、この地元に戻ってくるとか、その他いろいろな事情がある人には例外的によいと思います。 |
| 39 | 私立が目される中、このような制度ができ活性化されることは良いことであるが、誰でも受け入れられるような学校でいて欲しい |
| 40 | とても興味のあるアンケートです。大変な事と思いますが、これからの子どもたちのためにもよろしく願いいたします。 |
| 41 | それぞれの学校の現状をしらないので入学前に色々知りたい。 |
| 42 | 上の子を学区外に通わせています。もう一年早ければ手続きが楽だったのですが。 |
| 45 | まだ子どもが小さいのであまり実感がありませんが、興味はすごくあります。情報が保護者にどれだけはあるかが問題だと思 |
| 48 | 質問4に対して1と書いたのは、入学した学校にいじめにあたり、不登校（少し別問題かも）の時、ブロック内であれば、転校が以前より容易くできると思ったため。それ以外での必要性はあまり感じません。統廃合を目的としているブロック化という |
| 49 | 学区の境に住んでいて今までのお友達はA校に入学し、自分もA校に方が通学の面でも近いのに、B校の区域のためB校へ入学。という人にはとても良い制度（他校へ合併）と思うが、それ以外の人には学校の中味は見えにくいので選択の方法が困難。クラス数などが少ないので他の学校を選んだりしたら、この学校はますます少子化。 |
| 58 | 施行を通り越して実施になって今後どのようにしていくのか不安は多少ある。ニーズといえどもここ数年の急激な変化はとま |
| 64 | 学校の噂などによって人数が片寄ったりしないか。入学してからの転校はできるのか。 |
| 65 | 将来学校の生徒の人数が大幅に増減した場合の対処法は考えてあるのか知りたい。 |
| 68 | 比較的近くても学区ではないため、通えないのは残念である。この集計結果を区内幼稚園、保育園を通して公表していただ |
| 69 | アンケート集計結果に興味があります。品川区の広報新聞にでも掲載していただけると嬉しいです。 |
| 73 | 小学校入学について区立か私立か悩んでいるところ。共働きのため、私立だと放課後児童をどうするかが問題。 |
| 75 | 学校選択にブロックがあるのはどうかと思う。 |
| 77 | ブロックはいらないのでは、区内で選んでいけるようにしてほしい。私はブロックのはしの方、選びようがない。他の遠すぎるブロック外ではすぐ近くに学校があるのに... |
| 78 | ブロック化でなく家から半径何キロメートル以内という分け方が良かった。 |
| 79 | 区外への学校選択も自由にできるようになるといいと思う。小学校が品川の方が近いのに、大田区になるため、小学校が別になるというケースがよくあります。 |
| 80 | 18年前私もこの地区に就学していました。指定校制でありながら、越境通学も多かったです。指定校制が無意味でした。 |
| 82 | 子どもの学習意欲・学校教育の向上のためであるならば喜ばしい事だと思いますが、ただ制度が変わっただけでは重要な人間の尊重には至らないのでは、との不安もあります。管理教育から学びあう学校教育に変化してほしいと願っています。社会、家庭全体が参加（協力しあえる）できる環境であってほしいです。 |
| 83 | 選べるという可能性は良いと思う。学校を選んだという責任をおやも持つべきだ。 |
| 84 | 自分の一生の中で大切な6年間の思い出を作れる場所を自分で決められるようになったのはすばらしいことだと思う。私は山中小（山中小のプールは屋上にある）出身でも大井第一小に通う子どもたちが少しいらやましい。校庭が広くプールで水をこぼし |
| 85 | 学校選択制については賛成ですが、娘の入学までまだ2年あるので、その間にいろいろな学校の特色を知る機会があれば良いと思います。お友達は（お母様）通学路の安全性に不安があるようでした。 |
| 86 | 家を歩出ると品川区になる大田区にすんでます。このような場所なので学校は品川区の小学校の方が近いのに、大田区の小学校に行かなければならない。品川だけでなく近隣区も交えての選択制にしてほしいです。 |
| 87 | 導入によって、教育、地域、保護者の在り方を各々が考える機会に恵まれたことを良しとし、今後に生かせればと考えている。 |
| 89 | 学校が選択制といってもある範囲内でのことで、自由に選べるわけではないので、結局区立指定校に通うことになりそうです。 |
| 96 | 質問3で関心がないとしたのは、たまたま指定校が良かったためです。公立小学校はあまり、「うちにきて下さい」という態度にでてほしくないです。お客様あつかいされるとかえって信用できなくなります。 |
| 100 | 今までも希望すればして指定校以外にも通学できたので、選択制を制度化した目的は、学校の統廃合ではないかと思ってしまう。より人気のある学校へ行きたいと言っているような気がする。 |
| 102 | 学校選択制は、とても良い考えだと思います。選べる自由はいろいろな面でプラスになることの方が多いと思います。 |
| 103 | 「通学区域のブロック」だけじゃなくて、全区の学校選択制に選択してきてがよいと思います。 |
| 104 | 廃校にしないそうですが、児童数が少ない小学校は近隣の学校と合併して、児童数を多くなるようにしてほしいです。 |
| 105 | まだ、はじめての試みにて、善し悪しはつけられないのであろうが、何かにつけて閉鎖性を問われていた学校をオープンにしてく第一歩として評価すべき価値あり。段階的に他地域にも広がってほしいです。 |
| 106 | 学校選択制により、小学校が良い方向で活性化されることを大いに望んでいます。 |
| 107 | この制度には賛成です。教師によってクラスは全く異なったものになると思います。1つのクラス、教室をどの学校へいっても安心できるようになるのではと思います。 |

| | |
|-----|--|
| 108 | ブロック化にせず、区内の小学校全校を選択の対象にすべきと思います。 |
| 109 | 教師の質の向上のためにも良いと思う。今後どのような効果がみられるのが期待。 |
| 111 | 選択制については賛成だが、そのための情報が少なすぎる。各校ともに、授業見学など、盛んに行っているがそれだけでは学校の本当の姿が見えてこない。どのようにして学校を選んだら良いのか、私にも解らないが、学校側もどのように生徒を集めれば |
| 112 | 同一区内の学校でもやはりその地区地域ごとで差があると思うので、今回の「学校選択制」には賛成です。 |
| 113 | 学校だけでなく先生を選択できるようにしてほしい。学校のカラーがわかる本、資料を配ってほしい。 |
| 114 | ブロックに分けるのを無くし、前学校を自由に選択させてほしい。 |
| 115 | 区立では先生次第、学級崩壊も先生次第だといわれている。生徒や保護者が先生を評価するシステム（マイナス判定続くと減給するシステムとか）があればもっと現況を良くすることができるかと確信する。 |
| 117 | 情報が欲しい。 |
| 118 | 選択制になっても一番知りたいいじめ、教員の質まで公開は無理でしょう。（学校の生き残りがかかっているように見える） |
| 126 | 選べるだけに逆に迷ってしまう。もっと詳しい情報や学校の特徴などを知りたい。 |
| 129 | 学校を選ぶ情報がほとんどなく、質問6で書いた理由以外に選ぶ基準がない。今後それぞれの学校の現状アピール等を見て、選べるシステムにしないとブロック化の意味がない。 |
| 130 | 情報が欲しい。各学校の個性がはっきりしない。 |
| 131 | 各学校また、校長をはじめ指導教員の個性、特性、考え、その努力をはっきり出していくべきである。でないと意味がない。 |
| 132 | 選択制を導入するからには、選択の基準となる情報をもっと父兄に提供すべきであると思う。 |
| 133 | 正しい情報が入ってこないで、少し不安はあります。学校見学などの方法はとれるのでしょうか。 |
| 134 | 学校自体をあまりアピールすることなく自然のままの学校であって欲しい。親の意思も大事であるが、学校の良さを知っているのは通っている人の子ども意見や先生方だと思う。 |
| 137 | 選択により、人数が減ったり、増えたり、2クラス予定が1クラスになったり、40人1クラスと21人1クラスの違いについて |
| 140 | この制度を是非推進して欲しいと思います。質問8を公表し選択でいる公立校が望ましいと思います。 |
| 141 | 品川区だけでなく隣接する区（大田区）の学校にも自由に行ける様にしてもらいたい。境目に住んでいると隣の区の学校の方が |
| 142 | 現実にブロック化で選択する幅が広がっても、実際に生きたい学校がすぐ近くでも、ブロック外で学校のブロックの考え方、作 |
| 147 | 親が選択するだけではなく子ども（自分自身）で選択できると良いと思う。子どもはまだ自分自身で判断できる年齢ではないと |
| 279 | 各小学校の特徴など情報公開し、選択する幅を広くして欲しい。 |
| 281 | 子どもの数が減少し、小学校のクラス数も下り減りつつある今、選択制によって小学校が淘汰されていくのも基本的に賛成です。質の向上の機会になるのでは…。 |
| 283 | 私の住んでいる区域（西品川）は、自分のブロック内は徒歩で通学できるところは少なく、隣のブロックの小学校の方が近く歩いて通学できる小学校がいくつかあり、選択の余地がありますが、越境入学になってしまいます。 |
| 285 | 批判チラシを入れるところもあるが、前向きに今回のこの制度を成功させたい。この制度導入を喜んでいる人もたくさんいま |
| 289 | いいと思う。学区の教育、学習の向上のため、学校側が努力してくれるのでは？品川区は私立中学へ進学する人も他の区に較べ少ないし、親の考えも現状に満足している人も多いのでいい刺激になると思う。 |
| 295 | ブロック化はいいことだけど、中流家庭の子どもが行ける距離は限られている。ブロック化ぐらいで話題にするより、もっと学校そのもの中味を取り上げて欲しい。 |
| 297 | 人気のある学校と不人気の学校との差が出てくると閉鎖につながる。 |
| 301 | 学校選択ができるということは、当然遠方からの通学もあるということでしょうが、通学路の安全性はPTAもしくは、自分たちで守るのは少々心配ですし、公の場からの助けもお願いできないのでしょうか。 |
| 307 | 早期に中学校へも導入して欲しい。ダメ先生でも区立教員ならば地位が保障され、どこかの学校で教鞭をとるのであればその先生に当たったことを不運で考えなければならない。この制度の不完全。 |
| 311 | 調査結果を是非知りたいと思いますので、集計後にお知らせ下さい。 |
| 315 | 生徒数の片寄りが心配です。（希望学校が今年から1クラスになってしまった） |
| 319 | 入る前に選んだとしても、その時の同級生とか先生の環境で、思ってもいないことがあるかも知れないので、入るときに自由が利くのもけっこうだが1、2年過ごした後に他の学校にスムーズに移動できないものかと思う。 |
| 333 | いろいろな考え方があるのでよいと思います。質問2でブロックがわかりません。 |

質問4「ブロック制が必要か？」の質問に「いいえ」と答えた人の自由記述回答

| | |
|----|--|
| 6 | 小学1年生ですと、徒歩通学に限られていますので、特別悪い学校でない限り、近くの小学校に通ってしまう。 |
| 15 | 学校を選択するために必要な情報が公開されていないと思う。 |
| 18 | 私立の学校のように特色を出していくのは難しいと思う。（校長や教員の入れ替わりがあるので） |
| 20 | 人気のある学校とそうでない学校間で学力や先生のやる気などに影響が出ないか心配です。 |
| 21 | 現在、居住している地区にある小学校に大変満足していますが、この制度によりどのように変化していくか不安に思っています |
| 22 | 学校の数を減らすために私たちが利用されているように思える。 |
| 28 | 今、何かと話題になっている学校選択制ですが、父母の立場から言うと、かえって自由に選べというのは、とても難しいことだと思います。むしろ、公立なのだから、もっと地域ごとのつながりを深めるため、今までのように学校の区域が決まっている方が子どもたちも近くの友達がたくさんいて遊ぶのに良いと思います。今回のこの制度は、品川区が小学校の統廃合を意識してパソコンの数や校舎の設備などで決められては片寄りが出てしまう。お互いが競争して、よりよい素晴らしい学校になるのなら望ましいが、親の噂などに左右されてしまうのがほとんどではないかと思う。 |
| 43 | 子どもの数が減り、1クラスまたは2クラスしかないのを疑問だが学校の特色が明確でないのに、ブロック化するのはさらに疑問だ（何を根拠に学校を選んだら良いのか）。統廃合するための準備でしょうね。品川区は「子どもにお金をかけない」と言っているが、子どもを安心して産み育てられるようにしてほしい。そうしないと児童数が増えない。 |
| 44 | ブロックが東西にとられていたため、南北に隣り合わせの学校は別ブロックとなっていたのが不自然だった。 |
| 46 | 結局の所近いが、友達が大勢行く学校にするとする。 |
| 51 | 選択といわれても、具体的にどの学校がどうだという情報がないと解らなくて困る。 |
| 52 | 学校が選択できる各学校に違いがあるのでしょうか。そして選択できる情報が公開されているのでしょうか。子どもは地元の家から近い学校に入れるのが一番だと思います。ただし、学区の境界にあたる人はどちらでも選べると言うこと（今までOK）で |
| 53 | 格差が広がり、地元に入れたくてもあまりレベルが低いと、嫌でも他へいれなければならない。 |

| | |
|-----|---|
| 54 | 本来の目的は経費節減のための学校つぶしだと考えます。公立校は予算上、教員が入れ替わることから、大きな格差は無理だと思えます。学校を減らすことは少子化に伴い、やむを得ないが地域とのつながりの良さも気づかず翻弄される保護者があわれて |
| 56 | そこまでなくて良いんじゃないかと思う。親がなんでも決めてしまうから自立できない子どもが増えるんじゃないでしょう |
| 57 | 学校を選択することによって、おこる様々な問題点を考えると不安が多く、品川区の方針にほとんどの住民が納得できていない状態にあると思えます。学校選択制だけでなく今品川の子どもたちにとって悪い環境になりつつあります。区民の意見をしっかり |
| 59 | 特に必要性があるとは思えない。 |
| 60 | 必要ない |
| 61 | 同じマンションで過去十数年にわたり、3カ所の小学校に通える場所なので特別何も感じない。ただ、学校により集中しないも |
| 63 | 区立までも選択制度になってしまうと、そのうち学校によって人数が片寄ってしまったり、入りたいところに入れなくなったりするような可能性もあり得ると思えます。小学校では子どもが選択するわけじゃなく、親が選択するだけだから、中学からで十 |
| 66 | 品川区教育委員長の野心から出た発注ではないかと思いやさげではない。選択制以前に30人学級の実施など、本当に意味での子どものためになる今やるべき事柄が多いはず。公立校の良さは、どこでも公平に良質な教育が受けられることであると思うが、各校が無理に特色を出そうとするあまり、実は子どもが見えなくなっているような気がしてならない。 |
| 67 | ブロック制の選択よりも、境の人達をもっと大切に、越境入学制度を緩和した方が良いのではないでしょう。目の前に学校があるのに、遠くの学校へは行かせないでしょう。(私立は別です) |
| 70 | 人数が少ないせいか「親とこのふれあい」を名目にやたら保護者が学校に行く回数や手伝うことが多い。もっと学校は「子どもと先生の社会」として、親と離して指導して欲しい。 |
| 71 | スタート前にこのようなアンケート調査があるべきと感じます。 |
| 72 | 学校選択制について伝々する以前の問題として、児童数の割りに学校数が多い気がする。学校も大胆なリストラを行い、優れた教員のみを残すべきではないか。 |
| 76 | ブロックにわけることに意味がないと思う。選択するなら品川全域にすべき。 |
| 81 | 学校を選択できることは、良いとは思っていますが、地域が距離的なことを考える地域性とは周りの人からなぜ学区の学校に行かせないのかとか、親はよいけれど子どもに聞かれたりとか、色々回りの環境が別視されることにより家族みんながほんろう |
| 88 | 地域で子どもをを育てましようという活動があるのだから、自宅を中心に4,5校から選ぶ方がいいと思います。このブロック |
| 90 | 選択制を聞いてから国立小学校を1校受験し、失敗しました。1年早く知っていれば私立も受験したと思えます。 |
| 91 | 専修大学より都に申し出て下さい。悪いうわさばかり広まり渦中の子どもたちの精神ダメージはひどいものです。品川区の教育長も事務的な態度で人の心をしらすぎます。 |
| 92 | 本当に自由に学校を選んで良いならブロック制にしても意味がない(区内のどこの学校でも選んでよいことにすべき) |
| 93 | 近所の友達と違う小学校になる可能性も多くなる今回の制度には反対です。また、遠い学校へ通わなくてはいけない子どもにとっても大変な通学をしいられるのは可哀想だと思います。 |
| 94 | 選択によって児童数に差がでてるが、増減にかかわらず1クラス40人で区切ってしまうと何もメリットがなくて残念。 |
| 95 | 何のために選択制にしているのかよく解らない。親の間でいるんなうわさが飛び交い、また細かい所まで聞かれたし、私にとっては迷惑な面が多い。来年一緒の学校だね。なんて言っていた従兄弟が別の学校へ行くことになり、子どもも戸惑っていた。 |
| 97 | あまり必要ないと思う。 |
| 98 | 元々児童数が少ない学校の今年の入学予定者数もやはり少なく区は統廃合目的でやっているのではないかと疑問の点もある。区の本当の目的は何であるのかを知りたい。また、その学校が他の施設になる予定であるという噂も流れているので、ますます |
| 99 | 何を目的とした誰のための制度なのかかわからない。事前の説明が何もなく勝手にどこかで決められた感じがする。 |
| 101 | すでに兄弟が通っており、現在の学校に特に不安や問題を感じないため、最初から他の学校を選択するつもりはなかった。自由化により学校間格差が広がり、いい学校とそうでない学校にわかれてしまうような気がする。知覚にすむ子どもたちが別々の学校に行くようになると親同士のつながりは希薄になり、学校と町会、地域の結びつきも薄れてしまうのでは内でしょうか。小学 |
| 110 | 転校などを自由にできるのはよいと思うが、入学前から選択できてもあまり関係ないと思える。 |
| 116 | 私が小学校の時、何がなくて不満だったことはなく、おこられたこと、誉められたことが一番頭に残っているので、足りなけれ |
| 127 | 情報に振り回されて、家に帰ってから友達のいないような学校へ子どもを行かせている(現に越境している友人がいますが)のはとてもかわいそうです。いじめと荒れさえないのなら近い学校外版です。ブロック化は統廃合の第 段階ではという父兄がたくさんいます。「教育委員会の方がいくらそんなことはありません。といったってうそよ」といってました。 |
| 128 | あまりにも制度として突然すぎる感じがする。選べといわれても、一体どんな学校なのかわかりづらい。先日のクローズアップ現代(NHK)での品川区教育委員会委員長の若月氏の説明は全然要領をえてなかった。不信感を覚えた。 |
| 135 | 指定校は予定では23人でしたが、一人減り、二人減り、目に見えて周りの人が移動してしまい、11人になってしまい、ブロック内ではなく一番近い学校に越境入学することにしました。 |
| 136 | ブロック化は作らない方がよいと思う。 |
| 143 | それよりもクラス数を多く、また多くの友達と接せられるように学校の統合を進めてもらいたい。少子化が進む中、今の数の小学校は必要ない。小学校の数を減らしなおかつ選択できるシステムがよいと思う。 |
| 144 | 選択制によって学校に子どもが集まり、他校が廃校になったりして、結果的に選択の幅が狭まったりしないかが心配です。 |
| 145 | 区は否定していますが、小学校の統廃合を目的とした制度のように思えます。担任の先生や校長先生が2,3年ごとにかわるようでは本当の校風はつくれないのでは。 |
| 146 | 統廃合が目的なのではないでしょうか。 |
| 148 | 子どもは社会が育てるとすれば、学校選択制により、まだ小さい子どもが同一でない小学校に通うことはあまり賛成でありませ |
| 149 | 行政の通達が先走り、現場の準備(学校側)ができていない様な気がする。越境を希望するのは、親の意見であるように感じる。果たして子どもたちにとって本当に越境は意味があるのだろうか疑問を感じる。 |
| 276 | 選択できるようになって結局一番近い学校に通わせるようになるので無意味だと思う。 |
| 277 | この制度は結果的に教師の負担を増やしたり質を低下させる恐れがある等という意見を聞いたことがあります。何よりも教師の質を上げること。もしその反対の傾向になるならそういう制度はない方がいいと思います。 |
| 287 | 現在、近くに2つの学校があり、距離は同じくらいだが、迷うことなく上の子が行っている学校と決めている。どこの学校も変わりなく見えるし、担任がどうなるかの方が重要、先生の質を高めて欲しい(人間性)。 |
| 291 | ブロック外の近くの小学校に行きたい場合、ブロック化がかえって不都合になる。 |
| 293 | 単なる噂でひとつの学校に集中してしまうケースが多く、児童数が少ない中で問題が多い。正しい情報が親には公開されない現 |
| 299 | ブロック化にせず、全区から選択できるようになるとよいと思えます。 |
| 309 | それぞれの学校に何かひとつでも良い特徴があるといったベースができていいるのなら選択も意味あるものに鳴るでしょうが、単にためす学校選びとして使用するのでは、子どもにとって良い結果をもたらすことはないと思えます。 |
| 313 | 選択制にしなくても本当に行きたい人は越境して来ると思う。 |

| | |
|-----|--|
| 317 | 反対です。区立は色々な子がいて、平等に学べたらいいのではないですか。私立ではないので特色を持つことはないと思います。近くの学校に行きたくても、もしその学校が勉強熱心すぎて他に楽しみがなかったりして、遠くの学校に行かなくてはならなくなったり、人数が片寄ったり色々問題が出てくるのでは。それより校長や先生がサラリーマン化して、自分のことばかりで |
| 321 | もっと、学校の内側を皆に知らせなければ本当の選択制とは言えないと思う。 |
| 323 | 学校選択制には反対です。すべての子どもが平等に教育を受ける権利があります。学校選択制により、学校に格差が出たのでは、権利がここのなわれると思います。将来的に学校の統廃合の問題など心配です。 |
| 325 | 一言学校選択制といいますが、私たちはどのような情報を得られるのかで選択が変わります。今はものすごく不安があります。 |
| 327 | 最初は選択制度はいいことと思いましたが、学校によって人気不人気があり、人員が集中したり、逆に児童数が不足する学校も出てくるので、前のような制度が良いのではないのでしょうか。 |
| 331 | 中学受験の実績のある小学校に人気が集まった現状を見ると、小学校の進学塾かと「お利口な小学校」と「おぼかな小学校」の2極分化が懸念されます。 |
| 335 | あまり知識がないので、これから情報収集したい。 |

質問5「どの小学校を選択したか？」の質問に「指定校以外」と答えた人の自由記述回答

| | |
|-----|---|
| 13 | 学校長の考えが学校の方針を決定すると思えるが、校長が転任になった場合はその考え方（方針）が継続されるかどうか不安 |
| 17 | もともと児童数の少ない学校が嫌われる傾向にあるのが気になる。（いくら設備が整っていても2クラス以上が理想らしい） |
| 20 | 人気のある学校とそうでない学校間で学力や先生のやる気などに影響が出ないか心配です。 |
| 22 | 学校の数を減らすために私たちが利用されているように思える。 |
| 25 | 近いのに別の学校に行かなければならないなどの問題は解決するけど、どういう趣旨で区がやるのかという方向に持っていくとするのが、全く伝わってこない。 |
| 26 | 各学校、教員の活性化につながると考えている。しかし、教員の異動が多いと意味のない制度。学校は教員の個性が強くなる方が特色があり、おもしろいと思います。 |
| 27 | 学校選択ができるようになって、1つの学校に児童が集中するケースが出ているように、他の学校との児童数のバランスが悪く |
| 30 | 学校によってもっと特色をもってもらい、その上で選択できるようになって欲しい。 |
| 42 | 上の子を学区外に通わせています。もう一年早ければ手続きが楽だったのですが。 |
| 56 | そこまでなくて良いんじゃないかと思う。親がなんでも決めてしまうから自立できない子どもが増えるんじゃないでしょう |
| 58 | 施行を通り越して実施になって今後どのようにっていくのか不安は多少ある。ニーズといえどもここ数年の急激な変化はとま |
| 64 | 学校の噂などによって人数が片寄ったりしないか。入学してからの転校はできるのか。 |
| 75 | 学校選択にブロックがあるのはどうかと思う。 |
| 98 | 元々児童数が少ない学校の今年の入学予定者数もやはり少なく区は統廃合目的でやっているのではないかと疑問の点もある。区の本筋の目的は何であるのかを知りたい。また、その学校が他の施設になる予定であるという噂も流れているので、ますます |
| 103 | 「通学区のブロック」だけじゃなくて、全区の学校選択制に選択してできてがよいと思います。 |
| 105 | まだ、はじめての試みにて、善し悪しはつけられないのであろうが、何かにつけて閉鎖性を問われていた学校をオープンにして |
| 106 | 学校選択制により、小学校が良い方向で活性化されることを大いに望んでいます。 |
| 114 | ブロックに分けるのを無くし、前学校を自由に選択させてほしい。 |
| 118 | 選択制になっても一番知りたいじめ、教員の質まで公開は無理でしょう。（学校の生き残りがかかっているようにみえる） |
| 128 | あまりにも制度として突然すぎる感じがする。選べといわれても、一体どんな学校なのかわかりづらい。先日のクローズアップ現代（NHK）での品川区教育委員会委員長の若月氏の説明は全然要領をえてなかった。不信任を覚えた。 |
| 129 | 学校を選ぶ情報がほとんどなく、質問6で書いた理由以外に選ぶ基準がない。今後それぞれの学校の現状アピール等を見て、選べるシステムにしないとブロック化の意味がない。 |
| 135 | 指定校は予定では23人でしたが、一人減り、二人減り、目に見えて周りの人が移動してしまい、11人になってしまい、ブロック内ではなく一番近い学校に越境入学することにしました。 |
| 141 | 品川区だけでなく隣接する区（大田区）の学校にも自由に行ける様にしてもらいたい。境目に住んでいると隣の区の学校の方が |
| 142 | 現実にブロック化で選択する幅が広がっても、実際に生きたい学校がすぐ近くでも、ブロック外で学校のブロックの考え方、作 |
| 143 | それよりもクラス数を多く、また多くの友達と接せられるように学校の統合を進めてもらいたい。少子化が進む中、今の数の小学校は必要ない。小学校の数を減らしなおかつ選択できるシステムがよいと思う。 |
| 281 | 子どもの数が減少し、小学校のクラス数も下々減りつつある今、選択制によって小学校が淘汰されていくのも基本的に賛成です。質の向上の機会になるのでは... |
| 303 | 各学校が自分の学校の方針をしっかりと外へ向けてうちだすのはとてもよいと思う。しかし、やりすぎになり、子どもがぐたびれてしまうようでは困ると思います。 |
| 311 | 調査結果を是非知りたいと思いますので、集計後にお知らせ下さい。 |
| 313 | 選択制にしなくても本当に行きたい人は越境して来ると思う。 |
| 333 | いろいろな考え方があるのでよいと思います。質問2でブロックがわかりません。 |

質問5「どの小学校を選択したか？」の質問に「私立小学校」と答えた人の自由記述回答

| | |
|-----|---|
| 55 | 選択制（通学区のブロック化）をしてしまって本当に良いのでしょうか。良い面より悪い面をもっと見て子どもにとっての教 |
| 72 | 学校選択制について伝々する以前の問題として、児童数の割りに学校数が多すぎる気がする。学校も大胆なりストラを行い、優れた教員のみを残すべきではないか。 |
| 115 | 区立では先生次第、学級崩壊も先生次第だといわれている。生徒や保護者が先生を評価するシステム（マイナス判定続くと減給するシステムとか）があればもっと現況を良くすることができるかと確信する。 |
| 279 | 各小学校の特徴など情報公開し、選択する幅を広くして欲しい。 |
| 291 | ブロック外の近くの小学校に行きたい場合、ブロック化がかえって不都合になる。 |
| 299 | ブロック化にせず、全区から選択できるようになるとよいと思います。 |

(2) 考察

数値分析 単純集計とクロス集計の結果から

質問1 あなたのお子さんの年齢を教えてください。

配布先が、幼稚園及び保育所在園の幼児の保護者対象ということから、来年(2001年)4月以降の入学予定児童の保護者が多かった(全体の72%)。したがって、本意向調査は、これからの小学校に入学しようとしている保護者の現時点(配布期間2000年2月末~3月)での意向がかなりの部分を占めていると、理解すべきだろう。

質問2 あなたのお住まいのブロックはどちらですか。

回答者の居住ブロックは、集計の通りであるが、99年度の品川区内の小学校1年生在籍者ブロック比は表1の通りである。また回答者全体から「知らない」「区外」「無回答」を除いた303(全体は402)の回答をブロック別に示した比も併せて示す。

表1「99年度小学1年生在籍者ブロック別数」と「アンケート回答者居住ブロック別数」
99年度小学1年生在籍者ブロック別数 アンケート回答者居住ブロック別数

| ブロック名 | 実数(%) | 実数(%) |
|-------|------------|------------|
| 品川・大崎 | 490(27.5%) | 116(38.3%) |
| 大井・八潮 | 561(31.5%) | 98(32.3%) |
| 荏原西 | 396(22.2%) | 41(13.5%) |
| 荏原東 | 335(18.8%) | 48(15.8%) |

* 小学1年生在籍者ブロック別数は品川区教委の資料から作成した。アンケート回答者居住ブロック別数は、「回答5=知らない」と「回答6=品川区以外」を除いた、303名の回答数を母数とした

回答者の居住ブロックは、「品川・大崎ブロック」「大井・八潮ブロック」に片寄っている。このことがどの程度調査結果に影響を与えているのか、不明であるが、概ね地域的な特徴が少ない(ヒアリング等でこうしたことが出された)とされる品川区にあっては、大きな影響を与えているとは考えにくい。

また、「回答5=知らない」(回答総数 75)

表2 居住ブロックがどこに該当するのかについて「知らない」と回答した75名の入学予定年次別内訳

| | 実数(%) |
|---------------|-----------|
| 2000年4月入学予定 | 9(12.0%) |
| 2001年4月 " | 23(30.7%) |
| 2002年4月以降入学予定 | 43(57.3%) |

の内訳は、質問1とのクロス集計によれば、表2の通りである。

当然のことかも知れないが、入学予定時期が遠くなればなるほど、どのブロックに割り当てられているのか不明な保護者が多い。

質問3 あなたはこのたびの「通学区域のブロック化」(学校選択制)に関心がありますか。

さすがに「通学区域のブロック化」への関心は高い。それでも、17.4%の回答者が「関心がない」と回答している。

クロス集計からの特徴的なこととして、入学予定年次が遠ざかるほど、関心は、2000年 = 75.5%、2001年 = 84.0%、2002年以降 = 85.6%と、高くなって行く。時間的な余裕と関心の高さは比例すると考えることもできる。一方で、前述のブロックへの割り当てを「知らない」と答えた保護者も入学年次が遠ざかるにつれて増えたことから、関心は高いが詳しいことはこれから、という姿勢もうかがえる。

質問4 あなたはこの制度が必要だと思いますか。

この制度（「通学区域のブロック化」）の必要性の有無の比が、55:41と評価が割れているのである。クロス集計をみても、入学年次との関連はほとんどない。少なくとも、保護者の圧倒的多くがこの制度を切望しているわけではないことが、はっきりしている。

質問5 あなたはどの学校を選びましたか（選びますか）。

現在どの学校に子どもを入学させようとしているかを問う設問であるが、402人中実に308人、76.6%が、「区立指定校」を選択している。入学予定年次（質問1）とのクロス集計をみると、「区立指定校」の選択比が、2000年入学予定 = 80.0%、2001年入学予定 = 76.8%、それ以降 = 74.3%と年次が下がるにつれて低下している。私立学校を選択した保護者の母数が多くないのではっきりとしたことはいえないが、「私立小学校」を選択した保護者が、それぞれ、2.7%、4.0%、3.6%と上昇する傾向にある。

また指定校以外を選択した80人中、質問3で関心があると回答したものが、74人（92.5%）と高い比率を示しているのは当然のことであろう。

質問6 あなたは、どのような基準で学校を選択しましたか（5つ以内の複数回答）

「通学距離」317人（78.9%）、「地元の学校」215人（53.5%）、「通学路の安全性」177人（44.0%）と、地域的、地理的な要件とでもいうべき項目が多くあげられている。さらに「子どもの友人関係」221人（55.0%）も高い数値である。したがって、上位4項目までは、物理的な条件や子どもとの人間関係が優先されていることを示しているといえるであろう。ということは現在文部省などの教育行政当局が力を入れている「特色ある学校」づくりに関連した事項は、それほど優先されるわけではない、ということになる。

その次の選択基準項目としては、「『荒れ』の有無」129人（32.1%）、「教員の指導力」121人（30.1%）がくる。ほぼ同数の人が選んでいる。教室や学校の様子が注目されている。さらに20%以上の項目に「子どもにとって楽しい授業」99人（24.6%）、「学校規模」88人（21.9%）が並び、少し離れて、「いじめの件数」57人（14.2%）等が並んでくる。「学校規模」に関してはいえば、品川区内の小学校は「小規模校」が多いが、こうした学校は今回（2000年4月入学）の学校選択の際に、敬遠される傾向がみられた。

こうした順位を就学先の決定の際の優先項目と考えれば、まずは物理的な条件や子ど

も自身の友人関係があげられ、その後に学校の様子やありかたがくるということになる。具体的に考えると、まず地理的に一番近い学校や安全に通える学校、子どもの友達が行く学校を選択し、その後に、選んだ学校の様子をみて決めるということになる。最初に選んだ学校の様子如何によっては、その学校が忌避されることになる。

「学校の伝統」39人(9.7%)、「私立中学への進学者数」28人(7.0%)、という数値をみると、地域の名門校・進学校が選択される、ということでもないようである。また、「ユニークな学校行事」25人(6.2%)、「教材の整備状況」13人(3.2%)ということから教育内容に関する「特色」はほとんど考慮されないということになる。ここでも「特色ある学校づくり」は保護者によってあまり評価されていないことがわかる。

また、最近の文部省の施策の柱である「教員の資質向上」や「校長の権限強化」は、「教員の指導力」121人(30.1%)、「校長の指導力」44人(10.9%)ということからある程度、保護者から期待されているととれる。とはいえ、「教員の指導力」が、「校長の指導力」を圧倒的に上回っていることから、結局は個々の教員への期待の方が大きいことが示されている。

また、文部省が力を入れ、いわゆる「学級崩壊」や「いじめ」・「不登校」などの「問題行動」の切り札としている「スクールカウンセラーの配置」9人(2.2%)は、保護者から全くといっていいほど、考慮されていない。さらには、「児童一人あたりのパソコンの台数」2人(0.5%)、「学校図書館司書の有無」2人(0.5%)、は選択基準外とでもいえる状況にある。

質問7 あなたが選んだ小学校について、上記質問6で選択した項目の現状をどの程度知っていますか。

学校の情報をどの程度有しているのかという設問である。「知っている」「やや知っている」という肯定的な回答が、256人(63.7%)である。

クロス集計では、質問5で「区立指定校」を選択したなかで肯定的な答えが、69.7%となっている。意外であるが、「区立指定校以外」を選択したなかで、肯定的な答えは51.5%にすぎない。「知っている」と答えたものは、7.6%であり、指定校の28.2%とは大きな差がある。区立

表3 質問5と7のクロス集計の加重平均値

| | |
|---------|------|
| (私立小学校) | 1.85 |
| 区立指定校 | 2.13 |
| (全体) | 2.22 |
| 区立指定校外 | 2.55 |

*値が小さい方がより「知っている」と解される

の指定校以外を選択したものでも、特によく分かっていると思って、選択したわけではない。また質問5とのクロスで過重平均を取ると表3のようになる。

ということは、類推すると正確な情報や理解で他の学校への選択行動を起こしているわけではない。特に、区立の指定校以外の学校を選択した保護者は、その学校の様子について十分に知りえて、選択したわけではない。

質問 8 上記質問 6 で選択し基準について、詳しい情報知りたいですか。

情報を希望しているものが、81.1%と圧倒的に多い。「通学区域のブロック化」には情報開示が不可欠である。

質問 7 とのクロス集計では、「知らない」という方向に行くにつれて「知りたい」が増えるのは当然のことであろうが、「知っている」と回答したなかにも「知りたい」が59.6%である。ということは、さらなる情報の公開やその内容の検討が必要である。今後、区教委がこの情報開示の必要性に対して、どのように答えていくのかが着目される。

質問 9 どのような小学校が子どもたちの教育にとって望ましいと思いますか（5つ以内の複数回答）。

「子どもの良さを引き出してくれる学校」350人（87.1%）というのは、予想されたことではあるが、圧倒的な多くの保護者の希望である。

「校庭が広い学校」142人（35.3%）、「緑がいっぱいある学校」130人（32.3%）が、上位にきている。質問 6 同様に、物理的な条件が先行している。といっても、「きれいなトイレやエアコンのある学校」34人（8.5%）は、全く上位にあがってこない。単に施設・設備を希望するというわけではない。とすれば、自然環境に関することを学校に求めているとも解すことができるだろう。広い空間と緑は、都市生活にとって欠けやすいものである。子どもの遊びという面からもこうしたものを公共空間である学校に求めるのはよく理解できる。

その次に、「学校運営に保護者の意見が反映される学校」129人（32.1%）、「保護者や地域住民が授業に参加できる学校」102人（25.4%）が上位に位置している。このことは、「学校選択」を考える際に重要である。「保護者の意見反映」や「保護者・住民の授業参加」が求められているのである。単に「お手伝い」として学校に参加するのはなく、学校経営という学校の意思決定や授業参加という教育内容への関与という形で、保護者・住民参加の要求が存在している。またこのことは、「選択」という与えられたものや今あるものから選ぶ発想ではなく、自分たちも積極的に関与し作り上げていくという方向を示しているものである。

「しつけ・生活指導に力を入れている学校」120人（29.9%）も上位にある。小学校のニーズとして、こうした事項が求められているのは確かであろう。しかし、「子どもの良さを引き出してくれる学校」と併せて考えると、親（保護者）の求めている「しつけ」や「生活指導」の内実に関する本質的な議論が必要に思われる。「学校の都合」を押しつけるような「しつけ」や「生活指導」ではないように思われる。

「障害のある子どもと共に学べる学校」99人（24.6%）が中位度にきている。4人に一人がこの項目を選んだことになる。「統合教育」や「インクルーシブな学校」への要

求は、確実に存在しているのである。その反面、子どもを能力によって分けることを前提とするであろう「習熟度別の学習指導のある学校」79人（19.7%）への要求も存在している。こうした保護者の意向は、どのような学校が望ましいのか、本質的な議論にかかわる問題であろう。

また、「学校行事の盛んな学校」72人（17.9%）は、学校五日制への移行のなかで削減がすすむ「学校行事」に対して、一定の要求があることを示している。

今回の「通学区域のブロック化」の「出所」ともいべき品川区教委の総合的教育改革プランである「プラン21」に盛り込まれた項目は、どのような評価をえているのであろうか。まず、「プラン21」では、「（1）教育課程の管理、充実」によって「学習習熟に応じた指導の実現」がなされることになっているが、これに関連するものとして「習熟度別の学習指導のある学校」（前掲）がある。また、「プラン21」の「（4）小学校の外国語教育の推進」も「英語教育が充実した学校」83人（20.6%）、「いろいろな外国語に接することのできる学校」34人（8.5%）ということで特に「英語教育」ということで望まれている。

しかしそれ以外の「（2）教科担任制の実施」、「（3）小・中学校一貫教育の推進」は、「教科ごとに先生の違う学校」27人（6.7%）、「中学生との交流の盛んな学校」4人（1.0%）と、ほとんど望まれていないのである。したがって、「通学区域のブロック化」以外の「プラン21」による施策において保護者に評価されているのは、習熟度別の学習と、英語教育という意味での「外国語教育」だけである。保護者のニーズに依拠した改革プランとは言い難い面がある。

おわりに 保護者の希望する学校

アンケートから垣間見える保護者の「望む学校の姿」として、以下のポイントが重要である。

近所にあること

広い校庭と緑が豊かなこと

子どもの良さを引き出してくれること

親（保護者）の意見が学校経営に反映されること

保護者・住民が授業に参加できること

は行政や財政の努力が必要であり、財源など簡単には実現できない要素を含んでいる。 は自分たちで学校を作り上げることを求めている。また、 は学校の存在理由もしくはめざすべき基本理念にかかわることである。

親（保護者）が自分たちも参加して「子どもの良さを引き出す学校」をめざすことを欲しているのである。こうした意欲を吸収し応えるような組織作りが必要であり、それ

は「学校選択」から出てこないように思われる。

学校改革の必要性は感じつつも、そのためのシステムと回路がない。そのような状況に学校選択制が提起された。そこでこの制度の必要性に関する意見が分かれたとみることもできる。少なくとも教育行政や学校経営の改革方向がアンケート結果には示されている。

記述回答「その他」について

スペースの関係で質問票には設けず、回答用の葉書に設けた「その他」という自由記述欄には157名が記入してくれた。どちらに分類するか判断の難しいものがあったものの、今回の「通学区域のブロック化」に関する保護者の意向は、おおよそ小分類では11グループに、大分類では3グループ（賛成、反対、その他）に分類することができた。

一、反対グループ：計74名（47.1%）

1. 「通学区域のブロック化」は不要であり、反対である：24名

例「情報に振り回されて、家に帰ってから友だちのいないような学校へ子どもを行かせている（現に越境させている友人がいます）のはとてもかわいそうです。いじめと荒れさえないのなら近い学校が一番です」（回答者番号127）

例「反対です。区立には色んな子がいて、平等に学べたらいいのではないですか。私立ではないので特色をもつことはないと思います」（回答者番号296）

2. 「通学区域のブロック化」には不安、懸念、心配を覚える：21名

例「生徒数の偏りが心配です。希望校が今年から1クラスになってしまいました」（回答者番号295）

3. 「通学区域のブロック化」は疑問を感じる：17名

例「何を目的とした誰のための制度なのか分からない。事前の説明も何もなく勝手にどこかで決められた感じがする」（回答者番号99）

4. 「通学区域のブロック化」には意味がない：11名

例「人事異動があるので、私立のような特色を出していくのは難しい」（回答者番号18）

5. 「通学区域のブロック化」は手続き的に問題あり：1名

二、賛成グループ：計54名（34.4%）

1. 「通学区域のブロック化」は積極的に支持する：29名

例「『通学区域のブロック化』だけじゃなく、全区の学校が選択できればよいと思います」（回答者番号103）

例「学校選択制により、小学校が良い方向で活性化されることを大いに期待しています」（回答者番号106）

2. 「通学区域のブロック化」には条件付で賛成する：22名

例「地域で子どもを育てましょうという活動があるのだから、自宅を中心に4, 5校から選ぶほうがいいと思います。このブロックは必要ないと思っています」（回答者番号88）

例「選択制については賛成だが、そのための情報が少なすぎる」（回答者番号111）

3. 「通学区域のブロック化」には一応賛成する：3名

例「ブロック化はいいことだけど、中流家庭の子どもがいきける距離は限られている。ブロック化ぐらいで話題にするよりは、もっと学校そのものの中身を創りあげて欲しい」（回答者番号285）

三．その他グループ：計29名（18.5％）

1．その他：22名

例「18年前、私もこの地区に就学していました。指定校制でありながら、越境入学も多かったです。指定校制が無意味でした」（回答者番号80）

例「区立では先生次第、学級崩壊も先生次第だといわれている。生徒や保護者が先生を評価するシステムがあればもっと現況を良くすることができると確信する」（回答者番号115）

2．「通学区域のブロック化」は判断を保留したい：4名

例「就学前に学校公開などを設けているがまだまだ情報不足の感があります。この選択制の良い点、悪い点についてもしっかり知りたいです」（回答者番号47）

3．「通学区域のブロック化」には困惑している：3名

例「選べるだけに逆に迷ってしまう。もっと詳しい情報や学校の特徴などを知りたい」（回答者番号126）

以上の分類を見ると、小分類で一番多いのは「積極的賛成」グループの29名であり、次が「批判・反対・不要」グループで25名である。しかし、「賛成グループ」、「反対グループ」、「その他グループ」という3つの大分類でいうと、それぞれ、34.4%、47.1%、18.5%となっており、反対派が賛成派を約13%上回っている。

詳細に見てみると、いくつか注目すべき点が見られる。

まず、積極的賛成グループには、中学校、品川区全体、あるいは他区までの拡大を求めるものから、若干の不安をもちつつも歓迎するというものまでの幅があるということである。次に「条件付賛成」グループでは、情報公開が積極的になされたり、学校の特色づくりがすすむことを条件とするものが多かった（逆に言えば、「反対派」では本当に知りたい情報は公開はありえない、人事異動があるかぎり公立小学校での特色づくりは考えられないということが反対理由になっている）。なおこのグループではブロック化というよりも、境界線上の場合に選択できるような措置が望ましいとの意見も結構多かった。「賛成派」ではその他、公立学校の活性化、教員の質向上につながるとの意見もみられた。

大分類の「反対グループ」で目立ったのは、前述したように人事異動により特色ある学校づくりは不可能であるとするものから、そもそも公立学校では特色は不要するもの、いろいろな子どもが一緒に学べるようにするのが本来の姿、人気のある学校とそうでない学校との二極化、選択基準がないので結局は風評で選んでしまう、学校統廃合を目的としているなどというものであった。また、今回の措置に関する手続き面での批判や品川区政の教育に関する姿勢を批判するものもあった。

ところで、「賛成グループ」に分類した中に「導入によって、教育、地域、保護者のあり方を各々が考える機会に恵まれたことを良とし、今後にいかにせよと考えている」（回答者番号87）とする意見があった。確かに今回の「通学区域のブロック化」がその引き金にはなったであろうが、本来はこうしたことは常々考えられるようにしておくべきことではなかったかと思うが、きわめて重要な指摘であろう。

それにしても、再録になるが「18年前、私もこの地区に就学していました。指定校制でありながら、越境入学も多かったです。指定校制が無意味でした」(回答者番号80)という背景があったことを押さえておくことは重要である。

つまり、こうした「越境入学」という現実がすでに東京の区部ではすみ、なおかつ私立学校への進学も多いという実態である。ちなみに、1998年度東京都小学校の場合、指定校変更が区部で7.5%、市部で1.6%、町村部で2.8%(東京都全体では5.3%)となっており、区域外就学の東京都全体1.0%を加味すると、区部では9%程度に上ることと思われる。全国平均が指定校変更で3.09%、区域外就学(受入)で1.11%であることを踏まえると、東京都の区部の突出が著しい。こうしたことが「通学区域のブロック化」導入と、反対運動が起きないままに実施に移されていったことの背景にあったということを確認すべきであろう。

2、ヒアリング

(1) 概要

品川および日野における「通学区域のブロック化」と学校選択制の導入が、地域社会の中で実際にどのように受けとめられたかを明らかにするため、ヒアリング調査を行った。本研究のアンケート調査では保護者の意向の全般的な傾向を明らかにしたのに対して、ヒアリング調査では以下のように目的を設定した。

第一は、地域社会の中で教育活動に取り組み、公立学校のあり方について発言・行動してきた人たちの声を聞くことである。「通学区域のブロック化」導入の意味を、地域の教育に関わってきた立場から明らかにし、さらに地域の当事者が考えている地域教育改革の今後の方向を知ろうとした。

第二は、地域社会のマイノリティーの視点から「通学区域のブロック化」を検討することである。東京都教育委員会の基本方針の第一が「あらゆる差別や偏見をなくすため」の「人権尊重教育の推進」とされていること、マイノリティーの視点の中にこそ行き詰まりをみせている現代教育の改革の原理があること(注1)をふまえるならば、「通学区域のブロック化」の評価にあたりマイノリティーの視点を欠かすことができない。

この目的から以下のように調査対象を選定した。まず品川については、品川・生活者ネットワークからヒアリングを行った。学校給食における、遺伝子組み替え食品についての問題提起、紙パック牛乳のリサイクルの仕組み作りなどを通じて、地域住民の立場から品川の公立学校改革にアプローチしつつあることに注目したためである。ヒアリングの会場では、品川・生活者ネットワークの配慮で、品川の学校の実情に詳しい学習塾経営者相澤氏の出席と発言も得られたので、「2.ヒアリング結果」に併せて収録している。

次に、ボランティアベースで日本語教室の運営を行ってきた IWC/IAC 国際市民の会へのヒアリングを通じて、品川における日本語を習得していない外国人の保護者や児童の意向を知ろうとした。「通学区域のブロック化」に対する住民の意向については、これまで品川区教育委員会、品川・生活者ネットワーク等によりアンケート調査が行われてきたが、本研究の調査も含めて、いずれも調査紙が日本語で作成され、調査の対象から日本語を習得していない外国人や、非識字者の存在が除外されてしまう問題が残されていた。本来、そうした当事者に直接ヒアリングを行うことが望ましかったが、限定された本調査の期間内に、当事者の存在の把握、調査のための交渉を進めることが困難だったため、品川の在住外国人の動向、とくにその教育要求について、最も詳しいとされている同会へのヒアリングを行った。

品川において同和教育の推進を提言してきた部落解放同盟東京都連合会品川支部からもヒアリングを行った。品川区では、1976年に「狭山事件とそれにとまなう社会的な運動を背景として、数名の生徒が「出身宣言」「同盟休校」を行ったことをきっかけとして(注2)同和教育への取り組みが行われ、1978年以降、城南中学校や台場小学校が東京都人権尊重教育推進校の指定を受け、同和教育を進めてきている。1999年5月には城南中学校の人権尊重教育実践に対して品川区長の表彰が行われるなど(学校に対しては初めて)、同和教育が品川の教育の重要な課題として認識されている。これらを当事者の立場から注視してきた品川支部の「通学区域のブロック化」に対する見解は、品川の教育の今後の課題

を展望するうえでも注目される。とくに今後の展望については、城南中学校に講師として招聘され同校の同和教育実践に理論的基礎を提供した川元祥一からもヒアリングを行ったが、現状分析を主たる課題とした本書には収録を割愛せざるを得なかった(注3)。

また調査の過程で、品川・生活者ネットワークにより日野・生活者ネットワークの紹介を得たため、日野における「通学区域のブロック化」についてもヒアリングを行うことができた。

以上のヒアリングは2000年2月29日から4月28日にかけて行われた。「通学区域のブロック化」の導入・実施があわただしく進められたのと同時期である。ヒアリングを通じて改めて浮き彫りになった地域住民の意識とは、「通学区域のブロック化」の導入手法が住民不在であることへの強い不満、この施策で「特色ある学校づくり」が進むのかという目的への不安と疑念、予想される悪影響への憂慮などだった。教育に深い関心を抱き、実際に地域の教育に責任ある関与をしている団体・個人の生の声であるだけに、その言葉は重い。それと同時に、「通学区域のブロック化」により今後助長されるす「問題ある」学校には行かない」という発想ではなくて、「地域の学校を、子ども・親・教師・学校・教育委員会などの共同作業で良いものにしていこう」という発想が、地域の当事者の間にほぼ共通してみられたことに、特に注意をはらっておきたい。ヒアリングはいずれの場合も2時間以上に及び、地域の教育諸活動のあり方について興味深い知見を多数得ることができたが、上に記した調査目的に即してヒアリングの内容を大幅に割愛している。また文責は一切報告書の著者にあることをお断りしておきたい。

注1 東京学芸大学教育実践総合センター編『教育の現代的課題と総合学習』アドバンテージサーバー2000 27ページ

注2 品川区立城南中学校編『平成10年度 人権尊重推進校記録』4ページ

注3 川元祥一の同和教育論については、同上書12-14,30-33ページ、川元祥一「伝統芸能の再生から見えてくる「環境」と「人権」東京学芸大学教育実践総合センター編『前掲書』ほか参照。

(2) 要旨と考察

1) 品川・生活者ネットワーク

品川の教育委員会の傍聴を2年間継続してきたが、今回の導入を事前には知ることはできず、出し抜かれた感がある。「通学区域のブロック化」について、まず導入の仕方そのものに疑問を感じ1999年10月5日にニュースを発行した(『品川生活者ネットワークニュース』1999/10/5臨時号)。「懸念される児童数の学校間格差の急速化や追いつかない特色ある学校づくり、学区拡大による通学時の安全確保など、問題点を解決しないまま、市民の声の反映が十分でないままの学校選択の自由化」が進められ、「行き着くところが「市民が選んだ学校の統廃合」であってはならないと報じた。教育改革の推進自体については賛成なので、プラン21に反対ではないが、今回のプロセスには反対である。反対・賛成だけでなく、学校改革をしたい。しかし自由化を基調とした「教育改革」には疑問がある。

1994年に品川ネットを立ち上げ、1995年に代理人(議員)を議会に送り出し、この間の議会を見てきたが、品川は区全体が官主導である。教育委員会も一切中身がわからない。教育委員にも4日前に

資料が送られ、会議の当日は賛否を問うだけである。市民参加は毛嫌いされており、市民参加という
と反対運動ととらえられてシャットアウトされる。施策はどんどん前倒しで実行され、住んでいる側
からみるとトップダウンの行政である。

品川ネットでは「品川区内在住のおとな」を対象にアンケートも行った。全体的には出来ず、配れる
人に配った。印刷は800して回答は74だった。自由記述には導入への賛否両論があったが、「目的が
わからない」「各学校の特色がはっきりせず選べない」「統廃合が目的と思われる」など不安や不審の
声が多数を占めていた。今回の小学校の選択については、例年、指定校変更で1割だったのが、事前
に1割動いて指定校変更は少なかった。親は妥当な判断をした。ただし八潮にある3校の小学校は団
地の子が多くて地域との関係が薄いこともあり、八潮北小学校の場合は半分移動して廃校の噂が流れ
ている。

教育委員会に中学校について問い合わせたら、教育委員会が決めるという回答だった。中学校にな
ると小学校と違って広範囲で動くことが予想される。とくにクラブ活動の影響がある。プラン21に
は小中一貫の構想もあって小中をくっつけて1つ学校をなくすという発想もある。小中どちらかに給
食機能を一元化するという話もあり、その伏線ではないかと考えている。

同席した学習塾経営者

塾は16年ずっと品川で続けている。「通学区域のブロック化」は品川の区政との関係を見る必要が
ある。子ども施策は弱くなっている。行政の責任放棄が続いており、流れとしては悪い。行政は計画的
に進めている。「通学区域のブロック化」について11月の初めに全情報公開を求めたらA4が1枚し
か出てこない。「口頭でした」「メモを捨てました」という対応で、ここまでやるかという感じだった。
教育長が6月30日に着任。次の日プラン21について講演した。彼は準備して入ってきた。

今回、「通学区域のブロック化」についての説明を、課長・係長クラスに対しても発表後に行ってい
る。夏のP連でも全く話題は出なかった。教育委員会の係長会が10月5日に行われてから。各校の
会長に説明して、言い捨てて帰った状況である。

中学校は基本台帳から50パーセントいないところもあり、基本的に自由化している。住民基本台
帳2000人で基本的に推移していて、小学生は1割が私立、9割が区立に通っている。中学生は7割
が区立に通っている。13年前フリーゾーン構想が出されて自由化していた。親の不自由感もあった。
戦後は学力保障のためのものだったが、学区をはずすことにより学校の責任が自由化されていくとみ
ている。それと同時に、学校では日の丸・君が代も会場の正面に掲げなくてはならない、垂らしてい
るのでは掲揚にならないという場面も生まれ、しめつけは厳しくなっている。改革に反対ではないが、
その前に親の学校参加など、やることがあるのではないか。自由化というと親に通ってしまう側面が
ある。ある中学校で子どもとの関係で辞めた先生がいる。不登校の子の机を取ってしまう先生がいる。
こうした事例に対して親の間には自由化を受け止める素地がある。学校は外からの批判に硬直する。
いま上の子が中2、今の学習指導要領は意欲・関心・態度だが、半分は勉強していない。いったい誰
が責任をとるのかという問題がある。

今回、地域の青年部の若い父親がいて、保育園の子どもは隣の学区の学校に友達と一緒に行きたく
ったが、祭りのとき子どもが来なかったらどうする、ということになり、父親同士が親の人間関係で

学区内の学校を選んだ。「通学区域のブロック化」に賛成だが、祭りのことを考えると反対という親もいた。

日時 2000年2月29日

会場 品川区立総合区民会館きゅりあん3階 会議室

出席者 井上(品川・生活者ネットワーク・代表)

佐久間宏美(品川・生活者ネットワーク・事務局長)

船尾(品川・生活者ネットワーク・事務局長)

加藤千鶴子(東京・生活者ネットワーク・調査室)

真鍋(品川・生活者ネットワーク・前事務局長)

相澤(学習塾エルマファミリー経営)

調査者 嶺井 田口 大森

2) IWC/IAC 国際市民の会

品川では住民の40人に1人が外国籍であり、外国籍の住民数は約8000人である。このうち日本語のケアが必要な子どもが200-300人いると推測しているが、こちらに情報が入ってくるのは小学生と中学生あわせて40人程度である。国籍は近年中国が多く、フィリピン・韓国・ブラジルが続いている。子どもたちの日本語教育の必要に応じるため、市民の会ではボランティアで日本語教室を開設してきたが、1998年度から区の教育委員会の委託事業としての位置づけも得て行っている。現在、授業は「品川区立総合区民会館きゅりあん」で行っており、小学生の場合、2ヶ月間、毎朝1限に登校してもらい120分間教えて、給食に間に合うように各学校に返している。区が学校に設置している日本語教室だけでは対応できないニーズに応じている。会では外国籍の成人とくに母親を対象とした日本語教室も週に2日開設している。このため外国籍の子どもの保護者とも接点があるが、母親たちの中で今回の「通学区域のブロック化」が話題になったとは聞いていない。会の方では、今回、ある中学校の中国人学生の受け入れ態勢と雰囲気 considering、別の学校への選択を薦めたケースが1件だけあった。

日時 2000年4月7日

会場 IWC/IAC 国際市民の会事務局

出席者 伊藤美里

調査者 田口 大森

3) 部落解放同盟東京都連合会品川支部

全国的に、被差別部落を校区に持つ学校への入学を避けるため、越境入学が行われてきた事実がある。品川支部ではこのような事実の上に、今回の「通学区域のブロック化」が、全国的に越境入学を公的に認め後押しすることにつながることを懸念している。

東京でも、同様に、越境入学の差別的な実態がある。同和教育を軸とした質の高い教育が保護者からも評価されてきた都内の区立小学校が、越境入学が原因で児童数が減少し、廃校につながりかねな

い状況も生じている。

品川の小中学校は、学校間のレベルの差があまり無いので、それほど問題はないという見方もあるが、単に品川だけの問題ではない。部落差別にもとづく、越境問題や子どものいじめなどが存在している中で他都市に先駆けて行われた品川の「通学区域のブロック化」が全国化した場合、越境入学や部落差別を公的に認めていく施策となる可能性がある。このため「通学区域のブロック化」について、基本的に反対である。

これまで品川区では、23区に先駆けて人権宣言を採択したり、東京都の人権尊重教育推進校の指定を受けた台場小学校・城南中学校を中心に積極的に同和教育を行ってきた実績がある。このような品川区における同和教育の推進とは、今回の「通学区域のブロック化」は相いれないのではないか。このような立場から人権上の配慮を十分に行うことも含め、区長や教育長には申し入れを行っている。

地域の学校を、子ども・親・教師・学校・教育委員会などの共同作業で良いものにしていこうというのが、同和教育の基本と考えている。この学校は「悪いから」あっちに行こうという発想に流れがちな今回の「通学区域のブロック化」は、地域住民が「教育」にどのように係わるのかを放棄することになるのではないか。その意味では親や地域住民の教育への責任が「通学区域のブロック化」と同時に問われていると思う。制度は品川で始まってしまったので、この「通学区域のブロック化」の影響や実態を把握し、地域の教育労働者や部落解放運動をともに進める共闘団体とともに、同和教育推進と部落差別撤廃の行政施策を求め今後の「通学区域のブロック化」に対処していきたいと考えている。

調査日 2000年4月28日

場 所 部落解放同盟東京都連合会品川支部

お 話 吉田隆穂(書記長)

高橋篤子(書記次長)

調査者 御園生 田口 大森

4) 日野市生活者ネットワーク

1999年3月、日野市では市立小中学校学校適正規模・適正配置検討委員会が第2次答申を出した。日野市では、この答申をふまえ学校選択制を実施すると言っているが、同委員会で審議をしてきた立場から言っても、今回の学校選択制導入は同答申を「ふまえた」ものとはいえない。

この答申では、小学校は1学年3クラス、中学校は1学年5クラスを適正規模とした。適正規模の明確化は統廃合と連動するため、小規模校からは相当不満があったが、どこをつぶすかまで突っ込んだ議論をして答申を出した。調整区域を設定して、現在の学区割の不合理には一定程度対応した。第1次答申の審議から学校選択制の議論も出てはいたが、学校選択制を導入すればせっかく合意した適正規模を損ないかねない。今回の学校選択制導入は上記委員会とは、明らかに違う流れである。

学校選択制導入は、教育畑出身の有元教育長によっても進められたが、市民に対しても議員に対しても突然の話だった。せめて学校選択制化導入の目的ぐらいは出して欲しかったが、それも現在までない。議会でも一切説明がなかった。

現在小学校は20あり、そのうち6校を3校に統合することについて既に学校適正規模配置委員会

で議論を尽くして合意がある。統廃合のために学校選択制導入の必要はない。では何のためか。日野の場合、選択といっても2校から1校を選ぶこととなり、その意義がいよいよ不明確である。

一応目的とされている特色ある学校づくりについて、そのビジョンを教育委員会も出せないでいる。学校選択制導入に対して、日野のPTAは賛成のコメントを出したが、選ぶに値する特色を出して欲しいとの要望を付した。校長は賛成。教員は反対の請願を出している。私たちが考える学校改革は子どもの考えを学校の中に活かすことであるが、それとは反対に、今後、各学校では悪い噂が出ないよう管理を強めることが予想される。

日時 2000年3月11日

会場 東京・生活者ネットワーク

出席者 執印真智子（東京生活者ネットワーク代表委員・日野市議会議員）

出沼恵美子（日野市議会委員・生活文教副委員長）

加藤千鶴子（東京生活者ネットワーク・東京市民調査会）

調査者 嶺井 御園生 大森

5) 島根県教育委員会・出雲市教育委員会

< 島根県教育委員会 >

学校選択は島根県では一般的ではない。というのは地方では面積が大きいため、弾力化しても通学時間が長くなり、自由な選択という趣旨に沿えるか疑問。また、一つの町村に一つの中学校というところも多く、そのようなところでは選択も何も無い。

県教委としては、学校の統廃合問題は取り扱わず、基本的には市町村の判断に任せているが、各市町村とも学校の規模だけでは統廃合の判断できないのではないか。地域によっては分校設置の要請が強いし、いったん設置した分校はなかなか廃止できない。さらに学校と地域の結びつきが基本的に強く、地域による学校への支援も、例えば運動会などを通じて日常的に行われている。問題は、極論すれば、学校規模か面積（通学区域の広さ）かの選択になる。

出雲市は適正規模を強調しているようだ。また幹線道路が通学路にまたがるという事情もあるようで、出雲市に特有の事情があるのだろう。出雲市のような事例は島根県内にはまだないが、松江市では団地による人口急増のため、過去に学区の線引きが変更された例はある。このように選択以外の弾力化で要求は満たされていると思う。また校区ごとに定員を厳しく分けているので、中学校による高校受験の有利不利ということは存在していないし、そのことを理由にした学校選択要求もない。

< 出雲市教育委員会 >

出雲市は自治協会の担当区域ごとに16の地区に分かれていて、各地区に一校ずつの小学校と公民館が存在している。ただし、小学校については山間部に位置する2地区で児童数が減少したため廃校となり、現在では小学校14校、公民館16館となっている。

出雲市では公民館活動が大変活発であり、各小学校と一体となって地域に大きな影響力をもっている。また、公民館長は自治協会長も兼務しており、自治協会や公民館関係者には各地域に対する「縄

張り意識」のようなものも強固である。そのため、地区の境界線の綱引きのようなものが過去に存在し、その影響で形がいびつな地区が存在したり、住所によっては地区の学校よりも別の小学校のほうが近いということも出てきた。

また人口のドーナツ化現象や一部の地区に大規模マンションが建設されたこともあって、児童数のアンバランスが生じ、学校規模の是正を図る必要が生じてきたものの、先のような事情から校区の線引きの変更は困難である。そこで、他地区の小学校の方が近い地域や人口増加地域を中心に選択を導入したのである。

バイパスの建設による通学路分断が選択制導入の中心的理由と受けとめられているようだが、むしろ、適正規模や学校へのアクセスが主な理由であり、調整区域的な発想である。選択地域は基本的には児童数の少ない小学校と多い小学校とに挟まれた地区であり、児童数の多い小学校から少ない方へ子どもを流す意図があるが、この一年では大きな変動はない。

日時：2000年4月4日

三、補論

(1) 学校選択制 その政策的比較

公立小中学校の選択制は全国的にはすでに文部省が一昨年、通学区域の弾力化を打ち出したことを受けて、紀伊半島の先端に近い三重県紀宝町が昨年、全国で初めて導入したのを手始めに、島根県出雲市などでも通学区域の弾力化を前提とした施策が実施されている。

しかしそれらの事例と品川区では、都市部の自治体では初めての試みでもあり、その政策決定過程にはいくつかの相違点がみられる。ここでは時期を同じくして公表された東京都日野市をはじめとする都市部における「小学校の選択制」の比較からその特徴と傾向を洗い出してみたい。

日野市の場合

東京の西部、多摩地区に位置する日野市では、1997年(平成9年)8月に日野市教育長からの諮問を受け、「市立小中学校適正規模・適正配置等検討委員会(会長・亀井浩明帝京大学教授)を設置し、第1次(平成10年3月)、第2次(平成11年3月)と2度にわたる答申を受けてその施策の骨子を作成している。

同答申は(1)市立小中学校適正規模・適正配置の基本的な考え方(2)市立小中学校の通学区域の基本的な考え方(3)市立幼稚園の適正配置から構成され、通学区域の弾力化について1次答申では主として現行の固定的な通学区域の認定方法を見直し、地域や保護者の「感覚」に合致した弾力的な運用の必要性を提起している。

しかし2次答申では選択制についてこれまでと異なり、「保護者に選択する機会があたえられることにより、選ぶ側の意識を柔軟にするとともに責任感を生じさせ、学校がただ受験し進学するための学力を身につけるだけでなく多様な教育が受けられる場であることを理解するなど」とその効果について一歩踏み込んだ考え方を示している。他方で弾力化により「学校の序列化や学校間の格差が生まれることも考えられる」という、その問題点を懸念する指摘もされている。

日野市の場合、検討委員会を設置することで、地域住民の要望を一定程度吸い上げようとした意図は見られるが、その過程では市議会での議論の欠如や、教委主導の政策誘導など、運営のありようをめぐる住民より疑問視される声もあがっていることが本調査プロジェクトで実施したヒアリングでも明らかになったように、その政策決定過程は必ずしも住民本位のものといえない部分もある。なかでも学校選択制度の導入についてはその是非について適正規模検討委員会の結論と異なる政策志向であることも指摘されており、教委・首長の意思が前面に押し出されたものともいえよう。

品川/日野 施策上の相違点

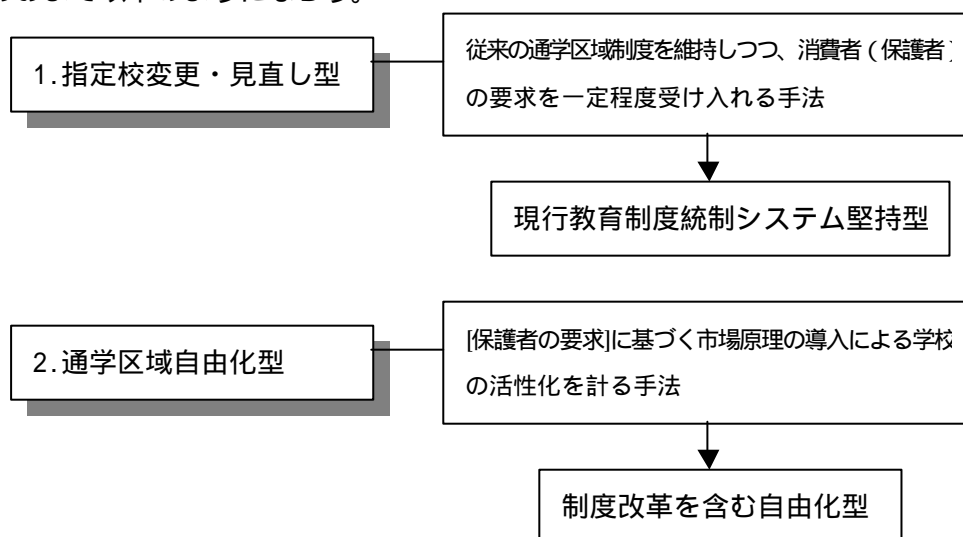
日野市の場合、通学区域の弾力化の前提にあるのが、通学区域の適正化(長距離通学区の是正)であり、その付帯施策として選択制が浮上している点は、品川区のように「統廃合を前提としない」施策とは立案の趣意が異なるものである。他方で決定に至るプロセスについても手続き上、有識者や住民代表を含めた検討委員会を設置し、3年にわたる検討の末に問題点の指摘を含めた「諮問」というスタイルで教育委員会へ提出されていることや、審議段階での関連行政情報の開示度や、住民説明会の実施などを見ても、品川区のような首長主導・行政主導型の意味決定プロセスとは趣を異にするものである。

無論ここで一概にどちらのスタイルがこれからの学校選択導入にさいして好ましいのかを定義することは出来ない。しかしこれら2つのケースは、今後の自治体における学校選択制導入に際して、統廃合を前提とするか否かという点において、都市部でのケーススタディと位置付けられるものであろう。その他にも目黒区・江東区・新宿区などでも「学校規模の適正化」の観点から日野市と同様の審議会が設置されているが、そのいずれも自由選択制については言及していないか、時期尚早との判断をしている。

かつて1996年に足立区で「通学区域の弾力化」と、小・中学校の統廃合計画（新通学区案）が発表・試行された際、特に特定の小学校において大幅な児童数の偏りが見られたことから同施策が廃止されるという経緯があったが、その際も当時の教育長決意により「通学区域の弾力化」導入に踏み切った経緯も、品川区のそれと意思決定が類似していることも指摘しておきたい。

「学校選択性」 その政策類型

さて、以上見てきたような各自治体での政策決定プロセスを、小玉ら(*)の指筒を手がかりに類型化すると、おおよそ以下のようなだろう。



品川区のケースは、将来的には2.への移行を含めた政策方向性を示唆しているものと位置付けられるが、前述の日野・足立区等の事例は、現行の委員会制度を堅持しつつ、保護者や世論の学校批判の高まりや、都市型住民のニーズを一定程度受け入れようとする「現行制度延命型」と位置付けられる。いわば現行教育行政による公教育の従来の役割（公共性・平等性）の強調により、自由化要求自体を自らの制御下におくことで、教育行政制度の本来目的である「公共性を保障を名目とした「私事」としての教育秩序維持を再編成するための権力機構の持続」に他ならないといえよう。今後、公立学校の自由化をめぐることは、そのような行政当局の動向を注視しつつ、地域の要求をどのように政策反映させていくのかを、公聴会や住民投票などを含めた民主的手続き論として発展させていくことが重要な課題といえよう。そのような意味において、学校選択制度をめぐる政策決定プロセスは、たんなる学校や保護者の問題に留まらず、そのまま自治体の民主成熟度のバロメーターと言い換えることも可能ではないだろうか。

(*)小玉重夫「足立区における通学区域自由化の政治課題」 『「学校選択」の検証』P122 民主教育研究所 2000.1

(2) 学校選択論への視点

1 . 文部省と学校選択論

日本の政策として義務教育諸学校の就学に際して、学校選択が主張されはじめたのは、教育の自由化個性化を旗印とした「臨時教育審議会（臨教審）」からである。その第三次答申（1987年）では、現在の通学区域制が硬直し、保護者の選択の機会への配慮に欠ける、として「画一的な」学校教育への批判の一貫として主張された。そして「学校選択の機会を前進的に拡大していくために、当面、具体的には調整区域の設定の拡大、学校指定の変更、区域外就学の一層の弾力的運用、親の意向の事前聴取・不服申し立ての仕組みの整備など多様な方法を工夫すべきである」と述べた。

また、いじめを理由とする学校指定の変更は、臨教審が設置された当時の最大の教育問題化していた「いじめ自殺」対策のひとつとして、これ以前の85年に文部省初・中局長通知によって、認められるようになった。

しかし、その後それ以上の通学区域の弾力化や学校指定変更、区域外就学に関する諸制度が充実することはなかった。

90年代に入り、教育行政というよりも行政改革全体の流れから、規制緩和が主張され、さらに村山自社連立政権の唯一の遺産ともいえるべき「地方分権推進委員会」の活動によって「規制緩和・地方分権」という行政改革の方向は規定路線になっていった。

これに対応する形で、文部省初等中等局長通知・文初小第八七号「通学区域制度の弾力的運用について」（1997年1月27日）がだされる。

この通知の全文は 資料1 である。この通知の特徴的なところは、「通学区域制度の弾力的運用」について、文部省自らの解釈をおこなうことなしに、ひたすら臨教審答申や行政改革委員会・規制緩和小委員会の「規制緩和の推進に関する意見（第2次）」（1996年12月16日）の趣旨をよく理解して進めるように、ということを述べている点である。ある意味では「真剣さ」に欠ける「通知」である。

また、後日「事例集」（文部省『公立小中学校における通学区域制度の運用に関する事例集』東洋館出版、1997年）をつくるのでそれを参考にしなさいという点も、不思議な通知である。よく言えば、先進的な試行を積みかねることであるが、意欲のあるところはやってみなさい、私たちは後から評価します、という程度の「通知」でしかない。全国一律の基準行政の放棄とも解することができる。

したがって、その後中央教育審議会が『今後の地方教育行政のあり方について(答申)』（1998年9月）を出し、その中で、「小・中学校の通学区域の設定や就学する学校の指定等にあたっては、学校選択の機会を拡大していく観点から、保護者や地域住民の意向に配慮し、教育の機会均等に留意しつつ地域の実情に即した弾力的な運用に努めること」、といわれても、状況の後追いでしかない。もっとも、この答申は地教行法の改正に主眼がおかれたので、まさに「付け足し」でしかなかった。

こうしてみると、文部省自体は「学校選択」にあまり乗り気ではないように思われる。今日の文部省の存在理由それ自体が、全国画一的な物的・人的教育水準の確保とナショナルカリキュラムの維持とその執行であるので、本来、この「学校選択」すなわち異なったものから欲するものを選択するという事に組織自体が向いていない。74平米、40人以下、学習指導要領の3点セットの維持と全国展開こそが文部省の存在理由だ。

清原正義氏は、文部省の「事例集」に掲載されている事例のいくつかを評し、「選択を積極的に進めるといふ政策の意図は特に存在せず、たんに通学区制度の運用に当たつての、事実上の必要から弾力的な扱いをすぎない」（『教育行政改革と学校事務』、69.p）と述べている。

2. 品川区の「通学区域のブロック化」の特質

さて、本格的な学校選択制ともいふべき品川区の「通学区域のブロック化」は、どのような特質を持つのか。同教委はこの目的を以下のように述べている。

「明るく楽しい学校づくりをめざす品川の教育改革構想の一貫として、社会の変化に対応した学校教育の内容の充実と質の向上を目的に、教育現場における特色ある教育活動の展開と個性的な学校づくりをサポートしつつ、子どもに適した教育を受けさせたいという保護者の希望に沿った学校選択ができる「通学区域のブロック化」を実施する。」
（品川教委学務課）

「教育現場における特色ある教育活動の展開と個性的な学校づくり」が明示されて、選択制とセットとなっている。「いじめ」などのような緊急避難的な「選択」ではなく、明らかに学校選択が「教育内容」の選択につながるのだということ示されている。つまり、学校選択 = 教育内容選択である。

現行の学習指導要領による教育内容統制のもと、こうしたことが可能なのか、その道筋ははっきり見えてこない。文部省も特色ある学校づくりを主張していたが、これまで多くの場合、高校の改革において述べてきたことであり、そのまま義務教育諸学校に適應できるものでもなからう。

次期学習指導要領では、中学校での選択時間の拡大がもりこまれ、そこでの差別化や、「総合的な学習の時間」も学校裁量であるからある程度の差別化は可能であるが、そういった差異を学校選択まで持って行くにはまだ時間的にも時期尚早である。拙速の観が否めない。なぜなら、まだ本質的な差は存在していないにもかかわらず、選択だけが先行しているからだ。

もし、こうした差別化が可能であると仮定しても、こうした選択制にはそれでも本質的な問題が残される。

誰が基本的にこうした学校の特質を決定するのか、ということだ。自分の居住地の校

区の学校が自分の欲するものとは異なった「特色」をつくりだし、それが意に添わぬ場合、別の学校を選択しなさい、ということになる。つまり、学校を保護者が選択するのではなく、学校に合わせて子どもを入学させるということにある。

現段階では、こうした「特色」ある学校づくりへの保護者や地域住民の意見表明・反映の回路は明示されていない。ということは、学校や教育行政が「勝手に」その学校の特色を決めることになる。これまでの学校も国が内容を裁量行政によって決め「押しつけて」きたことには変わらないが、今度は区教委や学校がそれをおこなうに他ならず、まさに地方分権が官・官分権にすぎないことの現れである。

保護者は、規制緩和小委員会がいうように、確かに教育サービスの「受益者」であり、「消費者」であるかも知れない。しかしそれ以前に、主権者であり、自然権的な親の教育の自由をもつものである。その「主権者」性を行政が保障した上で、「特色ある学校」づくりをおこない、最大多数の希望の実現を図った上で、それに合わない場合の選択肢として「学校選択」を持ち出しても遅くはないはずだ。

資料

文部省初等中等局長通知・文初小第八七号「通学区域制度の弾力的運用について」
(1997年1月27日)

文初小第78号

平成9年1月27日

各都道府県教育委員会教育長 殿

文部省初等中等教育局長

辻村哲夫

通学区域制度の弾力的運用について（通知）

市町村教育委員会は、当該市町村の設置する小学校又は中学校が2校以上ある場合、学校教育法施行令の規定により就学予定者等の就学すべき小学校又は中学校を指定することとされています。その際、市町村教育委員会は、通常あらかじめ各学校ごとに通学区域を設定し、これに基づいて就学すべき学校を指定しています。

この通学区域制度の運用に当たって配慮すべき事項については、既に別添1の昭和62年5月8日付け文初高第190号「臨時教育審議会「教育改革に関する第三次答申」について」をもって通知したところでありますが、このたび、行政改革委員会の「規制緩和の推進に関する意見（第2次）」（平成8年12月16日）において、保護者の意向に対する十分な配慮や選択機会の拡大の重要性、学校

選択の弾力化に向けた取組などについて別添2のような提言がなされました。

については、今後、特に下記事項について、教育上の影響等に留意しつつ、通学区域制度の弾力的運用に努めるよう、貴管下の市町村教育委員会に対し周知徹底をお願いします。

なお、おって通学区域制度の弾力的運用に関する事例等を収集し、それらの情報の提供を行うこととしておりますことを申し添えます。

記

1. 通学区域制度の運用に当たっては、行政改革委員会の「規制緩和の推進に関する意見（第2次）」の趣旨を踏まえ、各市町村教育委員会において、地域の実情に即し、保護者の意向に十分配慮した多様な工夫を行うこと。

2. 就学すべき学校の指定の変更や区域外就学については、市町村教育委員会において、地理的な理由や身体的な理由、いじめの対応を理由とする場合の外、児童生徒等の具体的な事情に即して相当と認めるときは、保護者の申立により、これを認めることができること。

3. 通学区域制度や就学すべき学校の指定の変更、区域外就学の仕組みについては、入学期日等の通知など様々な機会を通じて、広く保護者に対して周知すること。また、保護者が就学について相談できるよう、各学校に対してもその趣旨の徹底を図るとともに、市町村教育委員会における就学に関する相談体制の充実を図ること。

（初等中等教育局 小学校課）

(3) 人権の視点からみる「通学区域のブロック化」

品川の教育改革のあり方を考えていくうえで人権の視点が無視できない。品川は23区に先駆けて人権宣言を行った区として知られ、東京都の人権尊重教育推進校の指定を受けた城南中学校や台場小学校を中心に同和教育の実践も蓄積されている。1999年5月には城南中学校の人権尊重教育実践に対して品川区長の表彰が行われるなど(学校に対しては初めて)、品川の教育の重要な課題として人権が認識されている。これらは、東京都教育委員会の基本方針の第一が「あらゆる差別や偏見をなくすため」の「人権尊重教育の推進」とされていることと合致するだけでなく、日本政府が1997年7月に発表した「人権教育のための国連10年」に関する国内行動計画の方向とも重なる。人権を軸にした東京の教育改革の先頭に立っていくことが品川の教育には期待されている。

品川の教育にとってとりわけ重い意味を持つ人権の視点から「通学区域のブロック化」をみてみると、以下の問題を指摘することができる。

第1に、全国的に、被差別部落を校区に持つ学校への入学を避けるため、越境入学が行われてきた事実がある。東京でも、同様に、越境入学の差別的な実態がある。部落差別にもとづく、越境問題が存在している中で他都市に先駆けて行われた品川の「通学区域のブロック化」が全国化した場合、越境入学や部落差別を公的に認めていく施策となる可能性がある(詳しくは「二. 調査について」「2. ヒアリング」参照)。

このような被差別の当事者＝マイノリティー(少数者)からの厳しい批判があることだけが人権の視点からみた「通学区域のブロック化」の問題点ではない。第2に、人権論の発展のなかで確認されてきた「共同性による参加と決定の人権の実現」(海老原治善『現代日本の教育政策と教育改革』エイデル研究所1986 99頁)を図っていく視点から、その問題点が浮き彫りになる。今回の調査では「地域の学校を、子ども・親・教師・学校・教育委員会などの共同作業で良いものにしていこう」という発想が、地域の住民の間に広範にみられ、教育改革それ自体へは協力的な発言が多数みられた。「共同性による参加と決定の人権」の実現に向けた教育要求ととらえることができる。この教育要求と、「通学区域のブロック化」により今後助長されるおそれのある「問題ある」学校には行かない」という発想とは対立する。どちらの教育要求・発想に沿った教育改革に未来があるのかが、品川を含めた各自自治体には今後問われていかざるを得ない。

第3に、地域の教育を豊かにしていく可能性のリアリティーは、人権の視点の中にこそあることを品川の具体的事例にそくして指摘しておきたい。品川の住民は昔から祭り好きとして知られ、祭りを軸に地域的・人間的な結びつきが形成されてきたが、そうした区民のエネルギーと学校教育とは、これまで結びつかなかった。しかし、両者を結びつける可能性を秘めた新しい取り組みが、1998・1999年度、品川の城南中学校(東京都の人権尊重教育推進校)の教員により行われてきている。同校が1998年12月2日に行った人権イベントで、ゲストとして招かれた川本祥一講師が生徒たちに次のように語りかけた。「地域にも個性があり、それも大事なのです。例えば、荏原神社の祭りでは、神輿の鳳凰が口に初穂をくわえています。それは、今でも品川の港から荒川を通り、埼玉県の上野原まで行って、その稲穂をもらってくるのです。仮説としては、品川は港だから魚が採れ、上野原は農業で米が採れる。そ

れを交換したのではないかということです。また、お面が流れて来たという説もあるようです。僕も今、勉強しているところですが、皆さんも自分で調べてみるというような作業が大切だと思います。少なくとも、こういう祭りはここにしかないのです。」(品川区立城南中学校編『平成10年度 人権尊重推進校記録』31頁)生徒にとって身近な祭りの意味の考察から、田を耕し、海で漁をしてきた人々の労働の感触から地域の歴史の全体像、さらには日本文化の特質を捉えなおす学習への可能性が提示された。この特別講義は、同校の人権尊重教育推進委員会の教員を中心に「品川のまちの形成と被差別部落」などをテーマにフィールドワークや勉強会を積み重ねてきた中で行われたものであり、その成果は、同校の「歴史館」の人権コーナーに展示されている。この年、同校の文化祭では鳳凰が口に初穂をくわえた神輿がつくられ、品川の祭りをモチーフにした構成劇が生徒により上演された。その神輿も「歴史館」に展示されている。

もし品川が今後も「特色ある学校づくり」を目指すのであれば、その方策として、目的との整合性に問題を残した「通学区域のブロック化」に依拠していくのか、それとも、既に成果を上げつつある人権の視点を軸に学校づくりをすすめていくのか。品川の住民、教員、教育委員会による、これからの「選択」の行方を見守っていきたい。

(5) OECDが1993年に行った学校選択に関する研究調査報告書
『選択対象としての学校』(OECD、1994年)

要約

保護者と生徒による学校選択の拡大は、権力が「生産者」から「消費者」へ移行という権力関係の変化を意味する。その程度や形態はOECD諸国間でも多様である。けれども、この傾向は広がりつつある二つの動向に影響を受けている。一つは教育供給 educational provision に関する新市場主義的な考え方であり、もう一つは、指定された学校をただ受容するというのではなく、その学校への通学が望ましいのかどうかを自ら判断したいという非常に多くの保護者や生徒の「選択志向性 choosiness」である。

この報告書は、特にオーストリア、イギリス、オランダ、ニュージーランド、スウェーデンそして合衆国での学校選択問題への政策アプローチを検討したものである。その中のいくつかの国では、公立学校選択に関する規制を緩やかにし、生徒数に応じた資金配分を行っている。その他では、私立学校に対する補助金を導入したり、その制度を維持している。以上二つのケースとも、かつては「あらかじめ確保された」顧客を持っていた公立学校が、今や大きな競争にさらされるようになってきているということである。

とはいえ、こうした競争の結果、学校教育が大幅に改善されたとする直接的な証拠は今のところ存在しない。研究によると、保護者と子どもたちは学校の情報をえて教育の質についての比較検討を十分に行った上で学校を選ぶ、ということはほとんどなかった。けれども、生徒確保に向けての競争から生じる機動力によって、学校はその有効性を意識し、強力なリーダーシップを発揮し、使命感を持つようになり始めている。さらに、消費者の満足度を増加させるような選択は、それ自体が望ましいものと考えられているばかりでなく、ある学校を支持する保護者や子どもたちはその学校がもっと効果の上がるようになるように支援をしていくという理由で望ましいと見なされている。

しかしながら、実際には選択による衝撃は、学校の有効性にはあまり及ばず、システム全体に関わるある種の教育政策、特に「すべての生徒に中等学校を」推進に関わる政策の遂行を困難にするという形で影響を及ぼしているのである。選択は社会的分離を拡大する方向に動くという証拠が多くの国にみられる。なぜなら「望ましい」学校を選択する場合にはより特権的な階層の方が積極的な対応するからである。また、そうした「望ましい」学校は、より裕福な地域に存在していることが多く、その住民はその子ども達で一杯になっている学校へ就学できる特権を持続的に有しているからである。学校を幅広く選択できるようになれば、学校を新しく「選択」ということはうまく行かない。許容量に制限のあるほんの2、3の学校に好みが集まるからである。

こうした基本的な困難性に政策立案者が対応する方法はいくつかある。全体的に学校在籍者が減少している時には、人気のある学校にその拡大のために資金を出すという方法が利用されることはなかった。しかし、この方法はたいいていの国で学校在籍者が増えることが予想される1990年代後半にはかなり利用されるようになるだろう。人気の高い学校を選択する時の機会に不平等が生じないようにするには、不利益を被っているグループにもっと多くの情報、より積極的な通学支援、特定の学校への優先的なアクセスの保障を行うような政策をとるべきであろう。

しかし、結局のところ、選択が満足のいくような形で行われるには、様々な好み公平に充たされるよう

にしかないのである。学校の社会的地位や学力格差による違いではなく、学校ごとに授業方法あるいは教科間のバランスが多様になっている方が選択はより公平に行われることになろう。需要による圧力だけではこうした多様性を創り出すことはほとんどできない。したがって、真の意味で選択できるようにするには、教育の供給が多様な形で行われるような工夫がなされる必要がある。単一的な学校教育のモデルでは、選択は教育の機会や教育全体の質を改善するというよりも、教育の階層制を強化することになる。

中央教育審議会

1998/9 答申

今後の地方教育行政の在り方について

(中央教育審議会 答申)

「第2章 教育委員会制度の在り方について

5 地域住民の意向の積極的な把握・反映と教育行政への参画・協力」から

具体的改善方策

地域住民の意向の把握・反映)

ア 教育委員が地域住民などと直接意見交換を行う公聴会などの場の積極的な設定に努めること。また、教育モニター、教育アドバイザー等の積極的な活用や教育委員会独自の苦情処理窓口の設置の推進に努めること。

イ 小・中学校の通学区域の設定や就学する学校の指定等に当たっては、学校選択の機会を拡大していく観点から、保護者や地域住民の意向に十分配慮し、教育の機会均等に留意しつつ地域の実情に即した弾力的運用に努めること。